

史跡伊勢堂岱遺跡整備事業報告書

2018. 3

北秋田市教育委員会

序

国指定史跡伊勢堂岱遺跡は、平成8年に県道工事を中止し現地保存した遺跡です。平成9年度から平成22年度に学術調査を行い、国内に他に例がない4つの環状列石を中心とした大規模なまつりの場であることが明らかになり、注目されました。

また、平成21年1月には「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」の構成資産の一つとして、我が国の世界遺産暫定一覧表に登録され、ユネスコ世界文化遺産登録に向けて取り組んでいるところです。

北秋田市は史跡を後世に伝え、増加する見学者に便宜を図るために、国庫補助事業を活用し、平成23年度からガイダンス施設を中心とした総合的な整備を行い、平成29年度に完了することができました。

本報告書は整備事業の概要をまとめたものです。この整備から史跡の価値を広く伝えていくのが我々に与えられた責務と考えております。

最後に、この事業に御協力いただきました地域住民の皆様、格別の御指導・御助言いただきました小林達雄先生をはじめとした史跡伊勢堂岱遺跡整備検討委員会の諸先生、文化庁文化財部記念物課、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室に対しまして、深く感謝を申し上げますとともに、今後とも史跡の保存や活用、そして情報発信につきまして、一層の御指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成30年3月

北秋田市教育委員会

教育長 佐藤 昭洋

発刊にあたって

幕が切って落とされたのは、平成7年秋である。北秋田市を舞台とする、ドラマ伊勢堂岱の始まりであった。

折りしも、大館能代空港にアプローチする道路建設に先立って行われていた発掘調査で予想外の代物が土中から顔を出したのだ。それは、なんと縄文人が4,000年ほど前に、色とりどりの石を立て並べたストーンサークル環状列石である。まさしく鹿角市の大湯環状列石と兄弟分以外の何ものでもない。

ことの重大さに緊張の空気が張りつめ、直ちに関係機関との連絡協議が重ねられ、道路がそこまで迫っているのに、それ以上は押しとどめて、保存の大英断が下された。

地元の反応も素早かった。文化庁、県教委の指導を仰ぎながら、伊勢堂岱遺跡調査（整備）検討委員会が結成された。各委員会の顔ぶれは、いずれの他を以っても代え難い適切な構成となり、充実した整備への実現は効を奏した。本書は、その検討の経緯と内容の記録、報告である。

また、このとき官民一体の伊勢堂岱遺跡ワーキンググループが立ち上げられ、独自の取組体制が整えられた。これまで全国どこにも例を見ない伊勢堂岱方式というべきものであり高く評価されなければならない。グループは、本委員会を欠かさず傍聴しにきている。そして自ら計画立案して縄文まつりを毎年開催し、ときには扮装縄文人のコントが即興で演じられるなど、個性あふれた手作りの味を出している、とりわけ注目されるのは、国内にとどまらず、イギリスの遺跡や博物館を訪れるなど海外にまで足を伸ばして見聞を広げ、整備や活用に生かそうという心意気をみせている。

こうして現在、すでに整備は進行し、粗々の姿かたちを表しつつある。そこに動植物の新しい生命とともに、現代に生きるわれわれは改めて縄文人と対話する四次元の世界を実現することができたのだ。ここには市民だけでなく、日本人はおろか世界の人類遺産誕生の意味が確かに存するのを知るのである。

史跡伊勢堂岱遺跡整備検討委員会 委員長 小林 達雄



4つの環状列石（平成26年撮影）



環状列石



伊勢堂岱繩文館外觀



伊勢堂岱繩文館展示室

例 言

1. 本報告書は、史跡伊勢堂岱遺跡の整備事業報告書である。
2. 本整備事業は、北秋田市が文化庁の歴史生き生き史跡等総合活用整備事業の採択を受け、平成23年度から平成29年度までの期間に実施したものである。
3. 本整備事業の実施にあたっては、国庫および秋田県補助金の交付を受けた。
4. 本整備事業の実施区域は、史跡内のうち、40,000㎡を対象とした。
5. 史跡整備の実施設計は、史跡伊勢堂岱遺跡整備検討委員会・文化庁文化財部記念物課・秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室の指導、助言を得て、北秋田市教育委員会が行った。
6. 本整備事業および一般整備事業に対し指導、助言をいただいた史跡伊勢堂岱遺跡整備検討委員会委員・協力員の先生方は次のとおりである。

小林 達雄委員長 (國學院大學名誉教授 考古学)

富樫 泰時副委員長 (元秋田県立博物館長 考古学)

熊谷 常正委員 (盛岡大学社会文化学科教授 考古学)

鈴木 三男委員 (東北大学名誉教授 植物・植生学)

蒔田 明史委員 (秋田県立大学生物資源科学部教授 生態学・環境教育学)

澤田 正昭委員 (東北芸術工科大学文化財保存修理センター長・教授 保存科学)

金山 喜昭委員 (法政大学キャリアデザイン学部教授 博物館学・キャリアデザイン学)

藤本 幸雄協力員 (第四紀学会員・元秋田県立秋田西高等学校教諭 岩石学)

7. 本報告の執筆、編集は榎本剛治・株式会社歴史環境計画研究所があたった。
8. 写真については、北秋田市が撮影した他、設計者・監理者・施工者の撮影によるものを使用した。
9. 本整備事業については、御指導をいただいた史跡伊勢堂岱遺跡整備検討委員会各委員、文化庁文化財部記念物課、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室の諸先生の他、北秋田市議会「伊勢堂岱遺跡」縄文遺跡世界遺産登録議員連盟、地域住民の皆様をはじめとする関係各位の御協力によったことを明記し、御礼を申し上げます。

目 次

序

発刊にあたって

例 言

第1章 史跡整備事業の概要

- 第1節 位置と環境 9
- 第2節 史跡の概要(指定の概要・整備対象範囲)11
- 第3節 環境整備に至る経緯13
 - (1) 遺跡の発見から史跡指定まで
 - (2) 内容確認調査
 - (3) 史跡整備事業

第2章 発掘調査成果の概要

- 第1節 環状列石地区17
 - (1) 4つの環状列石
 - (2) 掘立柱建物群
 - (3) 土坑墓
 - (4) 埋設土器(土器棺墓)
 - (5) 沢(捨て場)
- 第2節 中央地区18
 - (1) 配石遺構
- 第3節 東部地区21
 - (1) 溝状遺構
 - (2) 中世の壕

第3章 史跡整備事業の内容

- 第1節 基本理念23
- 第2節 全体計画の理念23
- 第3節 地区区分計画23
- 第4節 環境整備の目標25
- 第5節 主な整備内容26

第4章 史跡指定地内の整備工事

- 第1節 環状列石等遺構保存の方針27

第2節	保存処理	27
	(1)洗淨	
	(2)強化・接合	
	(3)礫固定処理	
第3節	各環状列石(配石遺構)の保存処理	28
第4節	掘立柱建物跡の復元	31
第5節	溝状遺構の表示	33
第6節	壕の保護	33
第7節	園路の設置	33
第8節	サインの設置	33
第9節	橋梁の建設	34
第5章 伊勢堂岱縄文館建設		
第1節	建設方針	39
第2節	建築工事	39
	(1)ガイダンス施設の配置	
	(2)施設のコンセプト	
第3節	設備工事	46
	(1)YUCACO(床チャンバー方式)システムの採用	
	(2)換気のお考え方と熱回収の徹底	
第4節	展示工事	50
第5節	防火水槽工事	60
第6節	その他の外構工事	60
	(1)敷地誘導道路及び駐車場	
	(2)遺跡導入広場	
第7節	クマ対策	61
第6章 活用		
第1節	基本方針	62
第2節	主な活用事業	62
第3節	今後の展望	62
写真図版		
付編		92
	北秋田市伊勢堂岱縄文館条例	
	北秋田市伊勢堂岱縄文館管理規則	
	事業費及び年度別財源内訳	

第1章 史跡整備事業の概要

第1節 位置と環境

伊勢堂岱遺跡は秋田県北部に位置する鷹巣盆地、秋田内陸縦貫鉄道小ヶ田駅から南西3km、北秋田市脇神字伊勢堂岱地内の舌状台地に立地する。

鷹巣盆地は、山地、丘陵地、台地(段丘地)、低地と大きく4つに区分することができる(図1・2)。鷹巣盆地を東から西へ貫流し日本海へ注ぐ米代川の流域には、複数の河岸段丘が形成されている。伊勢堂岱遺跡周辺域の河岸段丘は、形成期の古い順に大野台Ⅰ～Ⅳ面、石巻岱面、毛馬内面と呼ばれている。

伊勢堂岱遺跡は石巻岱面に立地し、米代川の支流である小猿部川と阿仁川の浸食により形成された南北650m、東西350m、標高40～45mの舌状台地に立地する。台地の北から東縁にかけて湯車川が北流し、遺跡の台地と水田面との比高は約18mを測る。



図1 史跡位置図



図2 北秋田市内における史跡の位置

第2節 史跡の概要(指定の概要・整備対象範囲)

1. 名称 伊勢堂岱遺跡
2. 所在地 秋田県北秋田市脇神字伊勢堂岱
3. 官報告示 平成13年1月29日指定 文部科学省告示第8号
4. 指定面積 156,066.85㎡
5. 指定理由 ア 基準

特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準（昭和26年文化財保護委員会告示第2号）史跡の一部による。

イ 説明

秋田県北部に所在する縄文時代後期の遺跡。東北地方北部から北海道に発達した環状列石とそれを巡る掘立柱建物跡群、墓で特徴付けられる。

15ha余りの広大な台地を平坦に削平したり、溝で区画するなどの大規模な土木工事を行って3ヶ所以上もの環状列石などを設置しており、典型的な集団祭祀を示すものとして貴重である。



写真1 整備前の史跡指定地



図3 史跡指定地（赤線内側）範囲及び整備対象図

第3節 環境整備に至る経緯

(1) 遺跡の発見から史跡指定まで（平成4～13年）

大館能代空港（通称あきた北空港 平成10年7月開港）建設に伴う整備事業として、県道木戸石鷹巣線が空港と国道を結ぶ県道が空港へのアクセス道路として改良整備されることになった。これに伴い、秋田県教育委員会および鷹巣町教育委員会（当時）が平成4年度に路線内の遺跡分布調査を行ったところ、北秋田市脇神字伊勢堂岱地内で、新たに遺跡の存在を確認したのである。

平成7・8年度には県道路線内部分の発掘調査（第2・3次調査）を実施した。平成7年度に西側調査区とした区域において、長径約32mの環状列石A及び確認長15mの弧状をなす環状列石Bが確認された。翌年の発掘調査では、前年度に環状列石Aの南側で検出されていた柱穴群が、環状列石Aとは逆方向に展開する掘立柱建物群であることが判明し、調査区より南側の山林にもう一つの環状列石が存在する可能性が強まった。当該地区のハンド・ポーリング探査を実施した結果、長径約45mの環状列石Cが確認され、本遺跡が縄文時代後期前葉（約4000年前）に属する複数の環状列石を中心とし、配石遺構・掘立柱建物跡・土壇群・捨て場等の遺構で構成された当該期の大規模な葬祭祀場であることが判明した。

第2・3次調査は記録保存を目的とした発掘調査のため、秋田県教育委員会は調査終了後に環状列石Aを空港に隣接するポケットパークへ移築する予定だったが、3つ目の環状列石が確認されたことで、県民や地域住民が遺跡の重要性を理解し、遺跡保存の声が高まり、平成8年11月に佐々木喜久治秋田県知事（当時）は、道路建設ルートの迂回と遺跡の現地保存を決定したのである。

平成9年度からは鷹巣町教育委員会が主体となり、国庫補助、県補助金の交付を受け学術調査を継続し、平成12年度までは遺跡範囲確認調査および内容確認調査を行った。この調査で遺跡範囲が約20万㎡に広がることを確認したとともに、ハンド・ポーリング探査で環状列石Cの南側に新たに長径約36mの環状列石Dを検出した。

これらの調査結果を受けて、発見された遺構は学術的価値が高く、遺存状態も極めて良いことから、遺跡範囲200,453.65㎡のうち、156,066.85㎡が、平成13年1月に国の史跡に指定されたのである。

(2) 内容確認調査（平成13～22年度）

平成13年度から22年度にかけて、内容確認調査を行うことになった。

第Ⅰ期発掘調査の目的は、環状列石が集中する台地北西部において、各環状列石の周辺遺構の分布や性格を明らかにすることであった。掘立柱建物跡の構造や、道路状遺構、祭祀遺物の分布状況等を把握することができた。

平成20年度からは第Ⅱ期内容確認調査として、台地東側へ調査範囲を広げた。溝状遺構の全容解明や、塚の構築年代を主な課題とした調査を行った。

なお、鷹巣町は平成17年3月に隣接する合川町、森吉町、阿仁町と合併し、北秋田市を新設した。発掘調査・整備事業は北秋田市教育委員会が引き継いだ。

調査検討委員会の指導のもとに発掘調査を行い、その成果を平成22年度に「史跡伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書」としてまとめた。環状列石の構築順序、環状列石やその周辺での遺物分布傾向、掘立柱

建物跡の構造等について明らかにした。

(3) 史跡整備事業

本遺跡は地域住民によって現地保存を実現したという経緯もあり、考古学的な評価だけでなく地域社会のシンボルとなっている。このことから、史跡を適切に保存し次世代に継承するとともに、広く市民に親しまれ、広く発信するための整備・活用を目的とした『伊勢堂岱遺跡整備基本構想』を平成14年3月に策定した。『基本構想』では、総合的な史跡整備を目指すために「縄文のこころとかたちが生きる遺跡」という基本理念を掲げたのである。

『基本構想』を踏まえ、より具体的な将来像を提示するため『史跡伊勢堂岱遺跡整備基本計画』を平成19年3月に策定した。住民参加の史跡整備、当時の自然環境の創出、そして縄文文化の研究と情報を受発信するための施設を含めた総合的な整備を行なうなどの方針を提案し、地区区分計画、施設配置計画、修景計画、サウンドスケープ、植栽計画等を検討した。

平成17年に4町による合併で北秋田市が新設され、事業が引き継がれた。新市の『第1次総合計画』「文化財保護と活用」では、伊勢堂岱遺跡の周辺地域の整備について「今後の調査を待ちながら学習施設を含めた計画を検討」と施策の方向をうたっている。

平成17年から19年にかけて史跡指定地内の個人有地145,860㎡の公有化を実施し、史跡の約90%が北秋田市の所有となり、一体的な管理が可能になった。

平成19年度には整備基本設計を検討し、史跡内の導線やガイダンス施設の配置等を具体的に示した。史跡が秋田内陸縦貫鉄道小ヶ田駅に隣接するという利点を生かし、ガイダンス施設や駐車場を駅と史跡の中間に建設することも検討した。

基本構想後に史跡隣接地において日本海沿岸高速自動車道建設に計画されたこと及び、本史跡が北海道・北東北3県が推進している「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産となり、平成21年1月には世界遺産暫定一覧表に記載されたことから、平成25年度の実施設設計で、ガイダンス施設建設位置や、アクセス、導線といった計画の一部について変更と見直しに至った。(図3・4)

整備事業は国庫補助、秋田県補助を受け、平成23年度に着手し、平成29年度に完了した。



図4 史跡伊勢堂岱遺跡整備全体配置計画図

第2章 発掘調査成果の概要

これまで発掘調査を行った地域（図6）について地区区分（図5）を行い、次のように地区ごとの成果をまとめた。

第1節 環状列石地区

この地区はエリア1-①の範囲で、遺跡の中でも北西端に位置する。特徴は本遺跡の4つの環状列石が集中し、本史跡の中でも重要な地区である。環状列石の他に配石遺構、掘立柱建物跡、土坑、道路状遺構、捨て場等を検出している（図7）。

(1) 4つの環状列石

史跡が立地する舌状台地の北西端部に群集するように、4つの環状列石が構築されている。環状列石は広く掘削した広場をつくり、周りに大量の礫（河原石）を円形に配置している。礫の石質はヒン岩・安山岩が多く、そのほとんどは米代川やその支流から持ち込まれた可能性が考えられる。

土坑墓や埋設土器等の墓域だけでなく、環状列石の周囲からマツリの道具（第二の道具）がよく出土することから、環状列石はマツリの場として機能したと考えられている。

①環状列石A

第2次調査で発見された環状列石である。直径は約36mで、北側に張り出し部を持つ。東側にも弧状の配石列を検出していることから、二重の円環を意識して造営したと考えられる。環状列石構築の際に円環内側を削平し整地された痕跡が明らかになっている。

②環状列石B

第2次調査で発見された弧状の環状列石である。確認長15mで、配石列がない部分にも掘立柱建物跡の存在が確認されていることから、円環を意識していたが、何らかの理由で造営を止めてしまったものと評価されている。

③環状列石C

3重の円環で構成されている。直径約45mで4つの中でももっとも大きいものである。列石内側の広場部分の土を削り窪地状にして、そこで得た土を盛土し、列石の礫を配置した。

④環状列石D

ハンドボーリング探査で発見した4つ目の環状列石である。直径36mの2重の円環で、内帯と外帯の間に配石遺構が配置される特徴をもつ。

(2) 掘立柱建物群

環状列石の周囲を巡るように掘立柱建物群を検出している。建物は6本の柱が亀甲形に配置するものがほとんどである。同じ場所に重複するように検出されることから、短期間に建替えが繰り返されていたと考えられる。建物群の機能については、マツリの施設、住居、倉庫や台上墓等が論じられているが、発掘調査から地床炉を伴う平地式構造の建物で可能性を指摘した。

(3) 土坑墓

環状列石の内側や周辺から多くの墓が見つまっている。環状列石の下部から何度も掘り返し広げら

れていた土坑墓（大形不整形土坑墓）や単独の土坑墓、さらには柱の穴に囲まれ上屋（屋根）が架かっていた土坑墓なども確認されている。これらの土坑墓からは人骨は残存していない。環状列石B直下の土坑からは、唯一完形に復元された板状土偶が出土した。その他に石刀、三脚石器、鐸形土製品等の祭祀遺物が出土する。

(4)埋設土器（土器棺墓）

土坑に遺体を葬り一定期間経った後、遺体を取り出し、土器に骨を納めたと推定される埋設土器が環状列石の石の間から出土している。埋設土器には蓋石として、被熱を受けた赤い石が用いられることが多い。

(5)沢（捨て場）

列石Aの東に隣接する沢から、縄文土器や石器、土製品や石製品など様々な出土品が見つかる。環状列石での葬送儀礼に使用された道具を捨てた（納めた）、もの送りの場と考えられる。

第2節 中央地区

この地区はエリア①-2の範囲で、遺跡の北部中央側で発掘第2次調査から「中央調査区」と呼ばれた地区である。主に配石遺構が集石遺構、埋設遺構等を検出している(図8)。

(1)配石遺構

花の形をした配石遺構や直径10mの環状のもの、直径60cmの二重の石の環など、様々な配石遺構が確認されている。また、配石遺構ではないが、おびただしい数の石が広い範囲に散在している集石

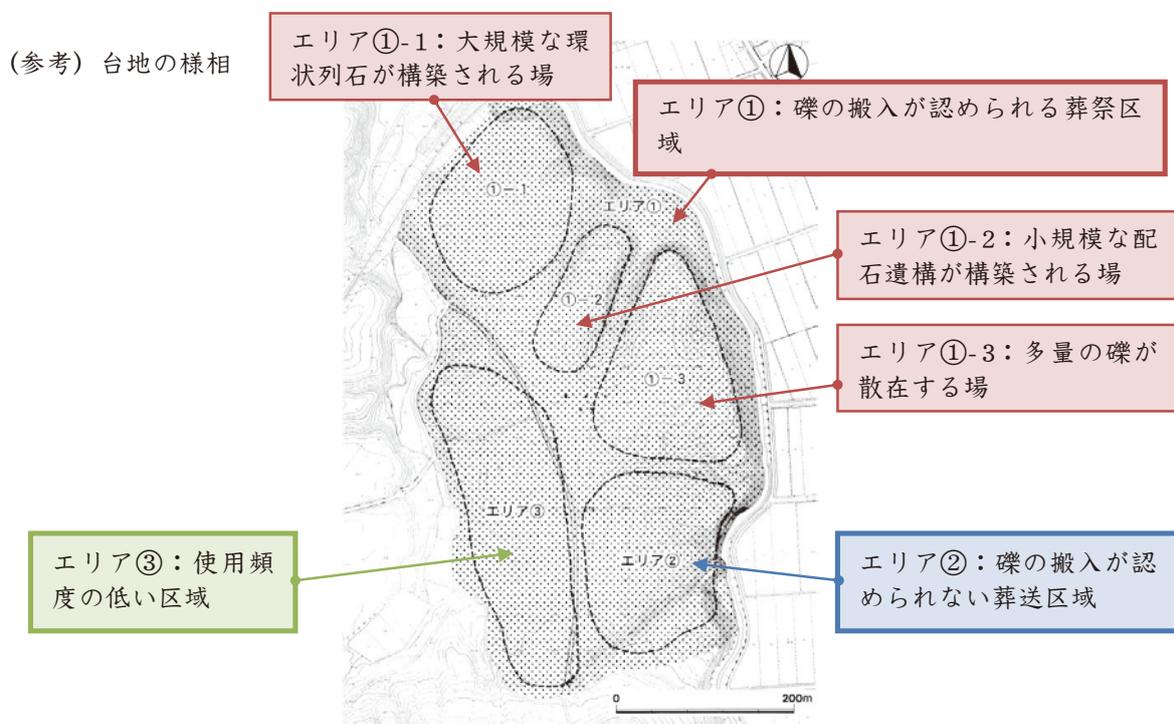


図5 史跡伊勢堂岱遺跡整備全体配置図

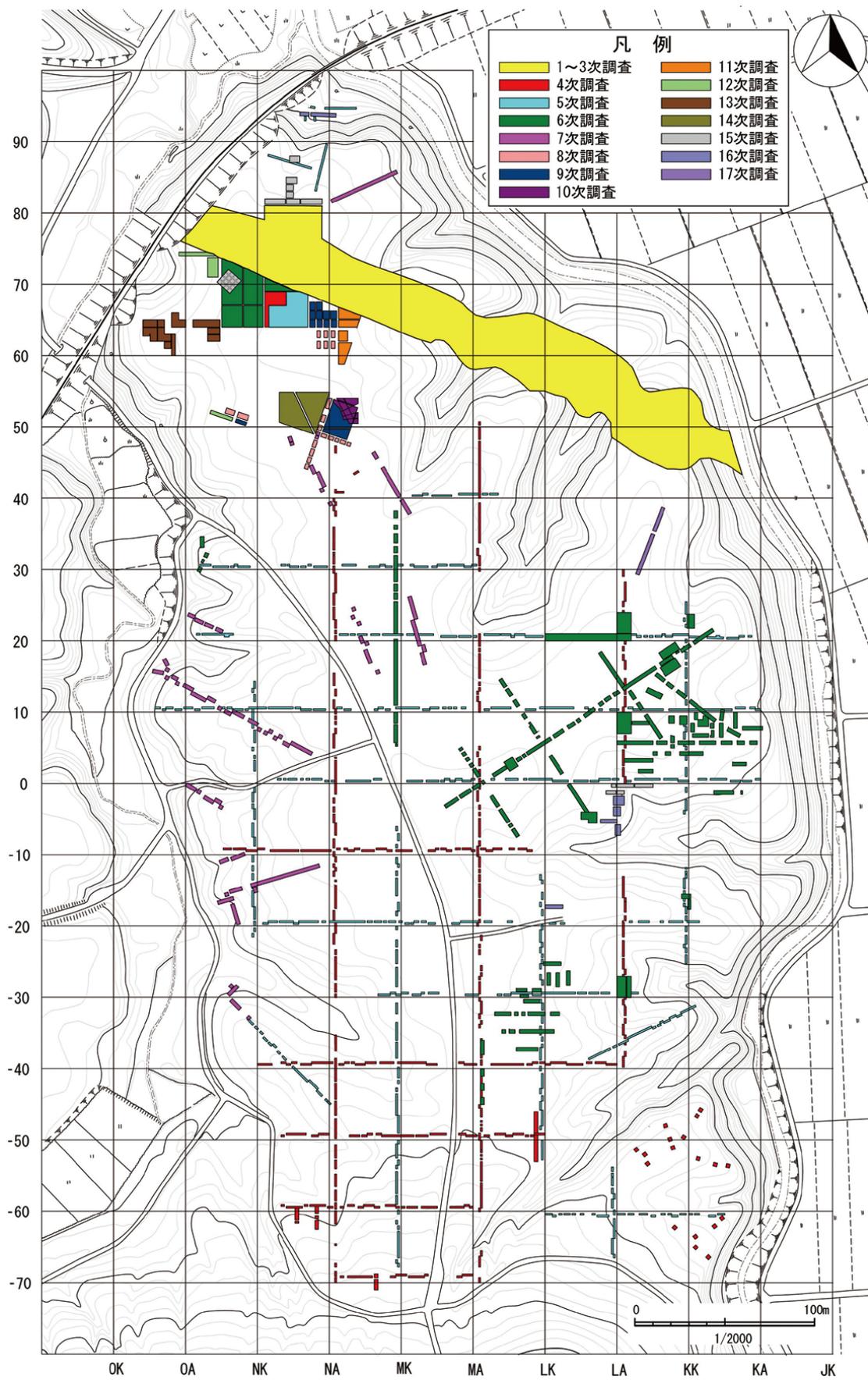


図6 発掘調査地点配置図



図7 エリア①-1 遺構配置

遺構も見つかっている。

第3節 東部地区

エリア①-3に相当する。溝状遺構やフラスコ状土坑、集積遺構、中世の壕等の遺構が検出されている。縄文時代後期の遺構周辺では当該期の遺物が多くみつかると(図9)。

(1) 溝状遺構

当遺跡の台地東側の地域では、沢に挟まれた地形を区切る溝を検出している。もっとも大規模なもの幅1.2m、深さ50cm、全長100mに及ぶ。地形的に排水のものとは考えにくく、土地を区分するための溝とも考えられるが、周囲から別の遺構は今のところ検出されておらず、構築の目的は明らかになっていない。

(2) 中世の壕

台地北東部2重の壕(SA001)を確認している。壕は他の遺構と異なり埋没せずに存在する。遺構の東側に土橋も認められる。発掘調査では壕の下層から縄文時代後期の包含層を確認しており、構築年代を中世と比定した。

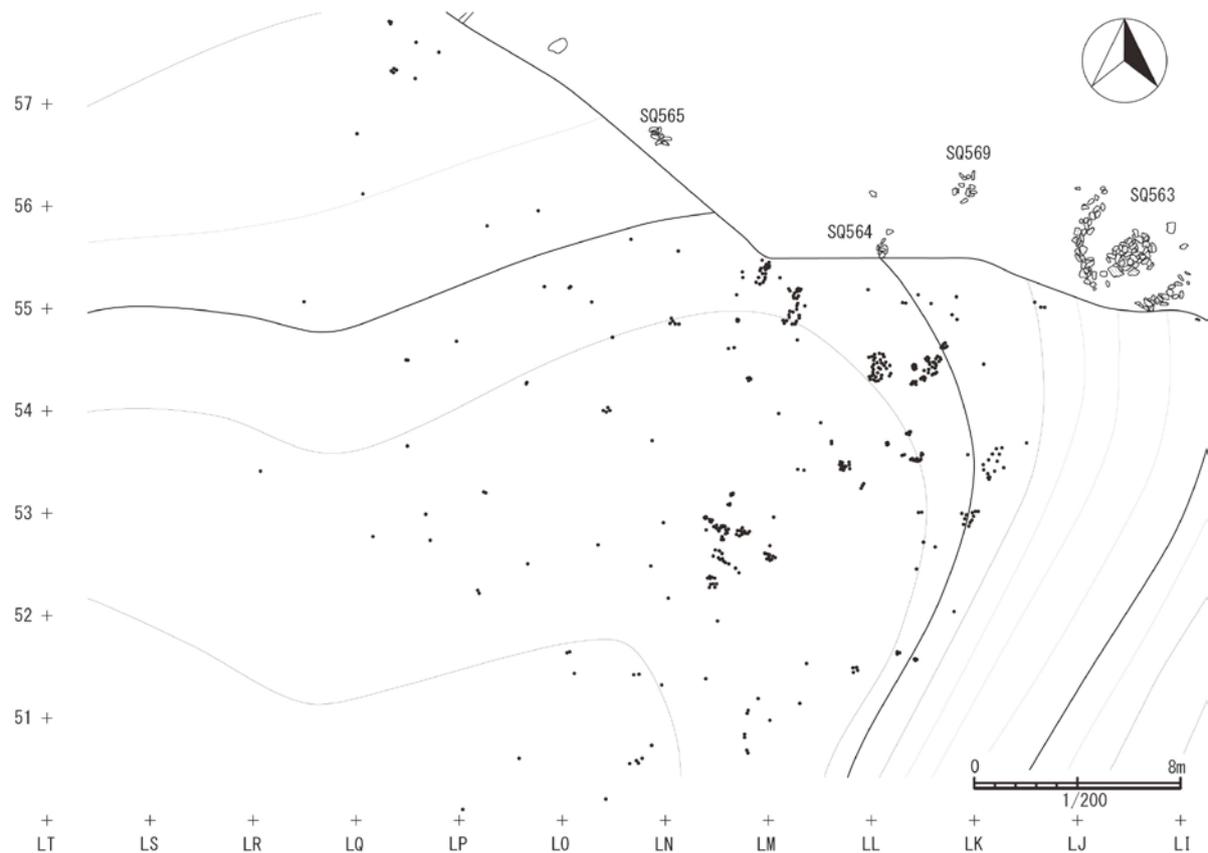


図8 エリア①-2 遺構配置

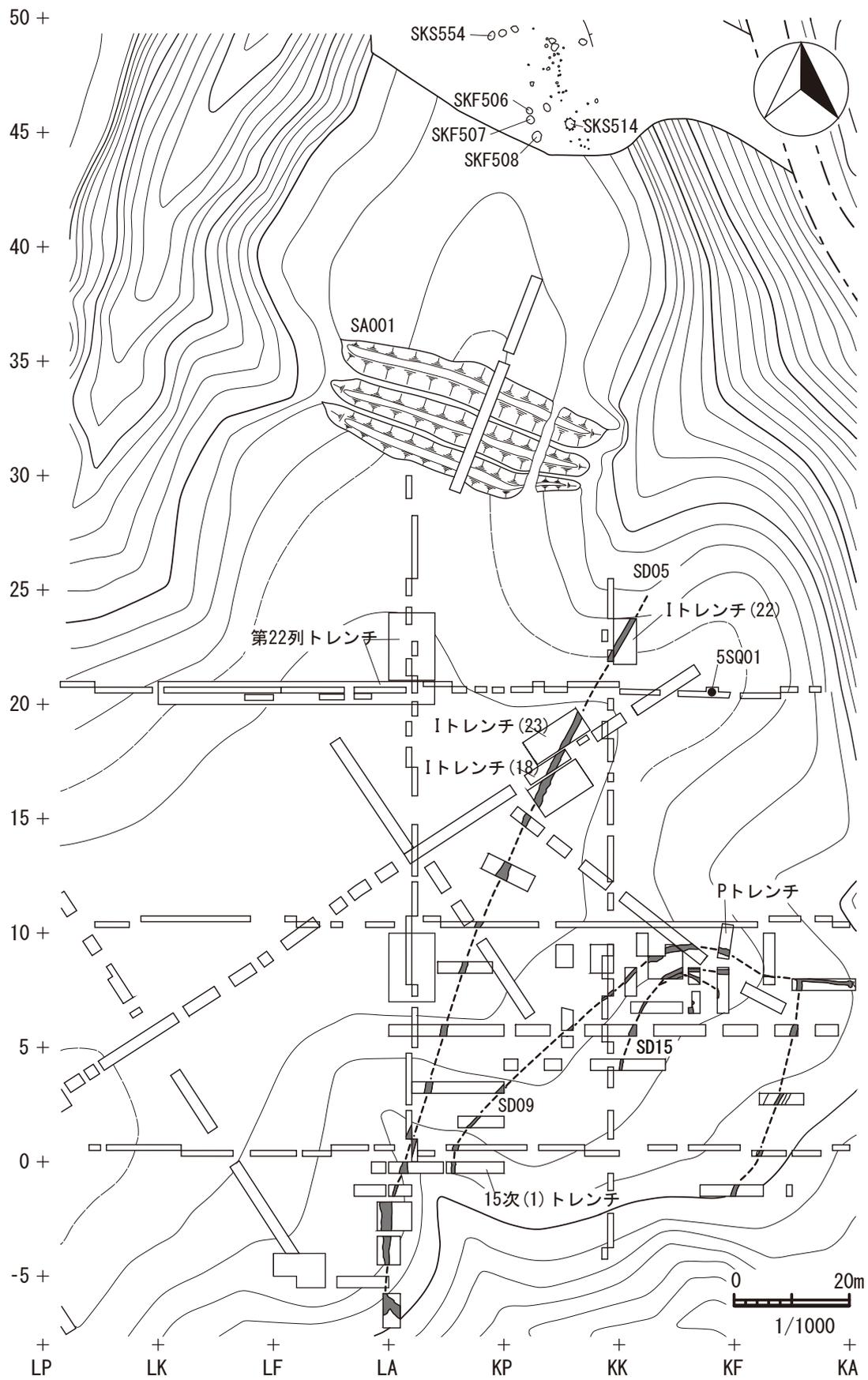


図9 エリア①-3遺構配置

第3章 史跡整備事業の内容

第1節 基本理念

平成14年3月に策定された『伊勢堂岱遺跡整備基本構想』では「縄文のこころとかたちが生きる遺跡」を基本理念として掲げ、住民参加の史跡整備、当時の自然環境の創出、そして縄文文化研究と情報を受発信するための施設を含めた総合的な整備を実施する方針を掲げた。

第2節 全体計画の理念

『基本構想』を踏まえ、より具体的な将来像を提示するため、『史跡伊勢堂岱遺跡整備基本計画』を策定した。『基本計画』では全体計画の理念として、以下のような方針を基に保存活用を図った。

①文化財の保護

史跡の遺構・遺物の保護を第一とした計画とする。

②真実性（authenticity）の追求

史跡整備に際しては調査・研究をもとに学術的に考察された成果を反映させる。

③歴史的景観の創出と保全

史跡内及び周辺の計画地の風致を保全するとともに縄文時代の佇まいを創出し、歴史的景観を保全する。

④活用を留意した計画

史跡整備計画にあたり、活用に充分留意した計画とする。

⑤市民参加の整備・活用

市民と行政の協働による史跡整備・活用の計画を図る。

第3節 地区区分計画

『基本構想』では史跡を有効に活用するために、範囲確認調査の成果や現況の植生、周辺の環境を考慮した上で、整備のための地区区分を示した。その後の計画の見直しを常に行い、史跡外の計画も含めた全体像を作成した(図10)。

史跡外については、史跡と自動車道に挟まれた水田一帯を施設整備地区と位置づけ、ガイダンス施設や駐車場を建設する地区とした。

①導入及び施設建設ゾーン

県道からの進入路、駐車場等の設置、展示や体験学習のできるガイダンス施設等を設置する地区。旧道路予定地として建設された未完成の橋脚も位置する。

②遺跡導入広場

史跡とガイダンス施設を繋ぐ地区。主に市民と協働で縄文時代の植栽

③環状列石ゾーン

環状列石や配石遺構が集中する地区で、第Ⅰ期環境整備区域。

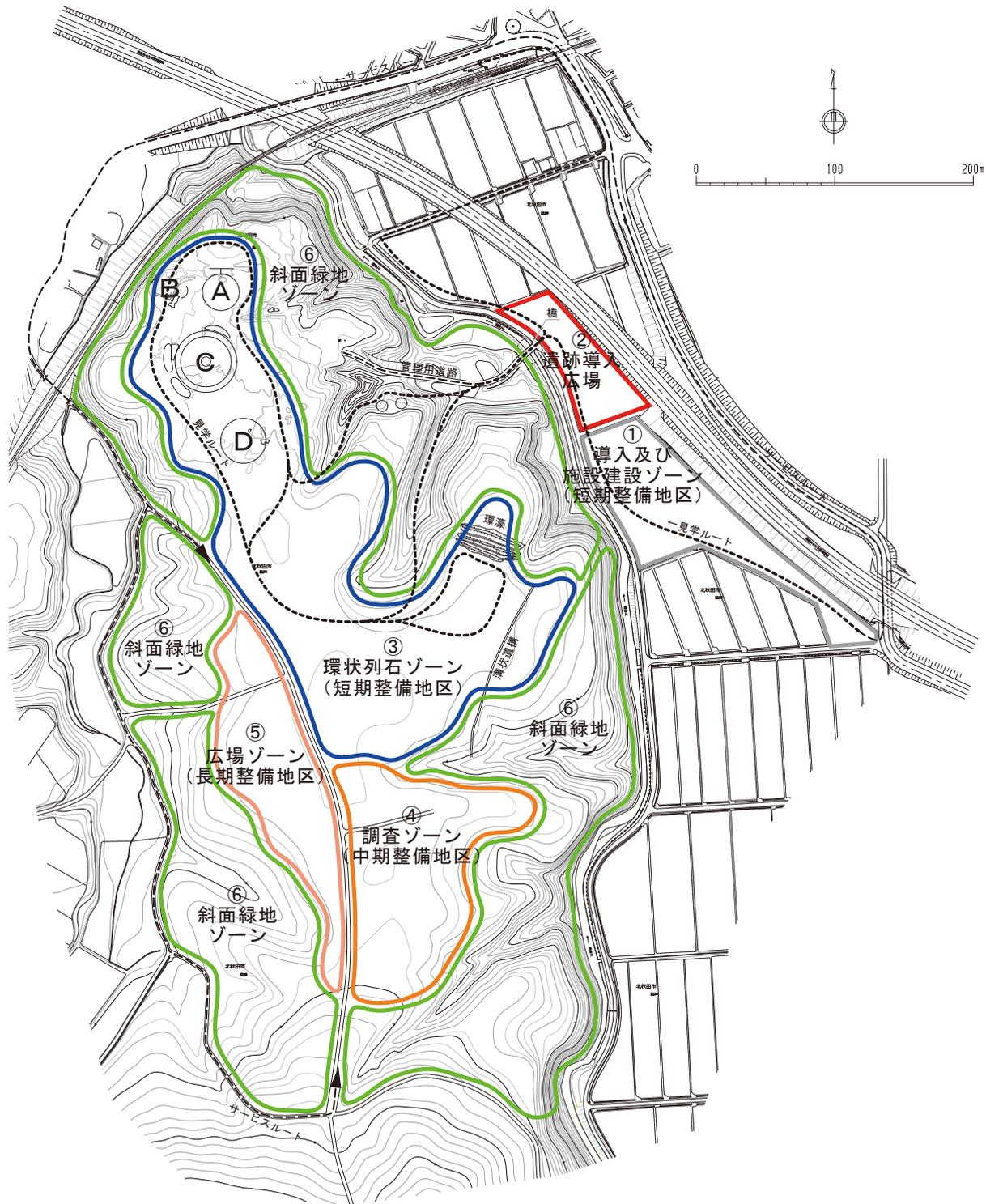


図10 整備計画ゾーニング (実施設計時)

④調査ゾーン

遺構が散在している部分。未だ内容確認調査が実施されていない部分で、全体像が解明できるまで保存する地区。

⑤広場ゾーン

地形は平坦で、活用しやすい場であるが、遺構の密度は比較的少なく、そのほとんどは史跡指定地外であるため、将来は屋外での体験学習や憩いの場として確保する。

⑥斜面緑地保全ゾーン

現況ではスギが林立しているが、『整備基本構想』の植栽計画に基づき、長期的に間伐しながら、急斜面の樹林帯を保護し斜面の崩落を防ぐ。

なお、『基本計画』で、秋田内陸縦貫鉄道小ヶ田駅や大館能代空港といった交通機関を活かした動線づくりをうたっている。空港へのアクセスについては、国と秋田県が主体となる県道大館能代空港西線の迂回路工事で、ガイダンス施設から空港へのアクセスが向上した。小ヶ田駅から史跡へのアクセスについては、鷹巣西道路に歩行者専用の弧線橋を新設することになっている。

第4節 環境整備の目標

本史跡は平成8年の現地保存以降、ボランティアグループをはじめとした市民によって、地域の文化遺産として広く親しまれており、整備前は市街地ではなかなかみられない動植物が豊富な自然を残していることから、史跡が従来もっている自然的な魅力と、ガイダンスやサインなどの人工構造物とが調和できるような整備を目指した。特にガイダンス施設などの可視化される構造物に対して、以下のような目標を掲げた。

・構造物はシンプルなデザイン

遺構・遺物を引き立たせるために、ガイダンス施設等の構造物はシンプルなデザインを追及する。

・ひとつひとつの整備に意味をもたせる

建築や復元等、それぞれの規模、色彩等に意味をもたせ、なぜそのような整備を行ったのか説明できるものにする。

第5節 主な整備内容

年度	国庫補助対象	市単独費
平成23年度	事業対象地航空測量	
平成24年度	史跡内環境整備実施設計、環状列石A保存処理、第1次盛土工事ほか	
平成25年度	環状列石A保存処理、史跡内環境整備、ガイダンス施設実施設計、地質調査、地形測量	外構実施設計、ガイダンス用地測量
平成26年度	環状列石B復元、橋梁実施設計、看板工事、ガイダンス新築工事	駐車場等外構工事、ガイダンス用地購入
平成27年度	環状列石C・D保存処理、ガイダンス工事監理、橋梁工事監理、映像資料制作、園路工事、橋梁下部工事、ガイダンス展示工事	第2次外構工事、水道敷設工事
平成28年度	環状列石C・D保存処理(遺構面保護)、橋梁上部工事	
平成29年度	配石遺構保存処理、橋梁護岸工事、報告書作成	旧橋撤去工事、クマ対策工事

表1 年次ごとの整備内容

国庫補助事業

- 平成23年度 史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業
- 平成24年度 史跡等及び埋蔵文化財公開活用事業
- 平成25年度 地域の特性を生かした史跡等総合活用支援推進事業
- 平成26年度 地域の特性を活かした史跡等総合活用支援推進事業
- 平成27年度 歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業
- 平成28年度 歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業
- 平成29年度 歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業

第4章 史跡指定地内の整備工事

第1節 環状列石等遺構保存の方針

『整備基本計画』の遺構の保存整備は、下記のような方針である。

- ・各遺構の現況及び地下の状況に充分留意し、その保存に万全を期す。
- ・遺構を埋め戻す際には、良質な砂で覆った上に、遺構に影響がないように保護盛土層を確保し、上部の荷重を分散させる。
- ・旧道路予定地や調査区においても遺構への影響がないレベル設定及び工法の選択を行う。

環状列石のみにかかわらず、遺構を実物展示することは、事前に考えられる劣化の要因を取り除くための準備が必要である。石造文化財について岩石学的調査・地質構造の調査・保存環境の調査・地下水位・汚染空気の調査・振動調査・植生調査・生物劣化要因の調査の8点について保護対策を講じるべきと指摘されている(沢田1997)。これらの要因を踏まえ、下記の2つの項目を中心に調査を市単独費で実施した。

①環状列石構成礫の調査

伊勢堂岱遺跡調査検討委員の藤本幸雄委員に依頼し、環状列石を構成する礫の石材について、種類・大きさ・円磨度等を調査した(図11)。非破壊で肉眼鑑定で原位置を保つことは原則であり、作業上の制約はある。

また、出土当時の状況写真と現況を比較し、将来の劣化の可能性等を把握し、修復や管理計画のための基礎データ収集も行った。

②環状列石をとりまく環境調査

遺構の劣化・風化には生物学的・化学的な影響が考えられる。そのため、土質分析や水質分析、地下水位などの調査を行い、遺構の保存状況や外的要因を把握し、史跡の環境を考慮した上で礫保存処理方法を検討した。

礫の保存処理に適した薬剤の選別を事前に研究する必要がある。強化・撥水の効果や石材の色彩・質感などの影響、処理後の石材表面における地衣類などの発生状況といった項目を、候補ごとに経過を観察した。

第2節 保存処理

上記の基礎調査を行った上で、下記のような保存修復を実施した。

(1)洗浄

石材の状況に応じて、石造文化財用クリーニング剤A C 322、地衣類・藍藻類除去財コレトルール等を使用した。

(2)強化・接合

平19年度に試供体による実験を行い、考案した強化剤IsedouA石質強化剤（I Nテクニカルラボ社製）を用いて強化処理を行った。石材の移動は認められないため、現地で塗布含浸を行った。強化後

に、撥水剤OBHを塗布した。

破断した礫については接合処理を行った。石材表面にクラックが認められるものには石質強化剤とアクリル樹脂を混合した溶剤を注入した。破断面の間隙については、礫と同質の石材を粉末化したものに水性エポキシエマルジョンを添加して、擬岩処理とした。

(3) 礫固定処理

風雨や降雪等で遺構面に損害が生じる可能性や、列石・配石構成礫の転倒や崩落が危惧されることから、改良土による根固めで礫を固定した。礫の固定は第1層に厚さ2cm程度の養生砂、第2層に厚さ5.5cmの根固め剤で構成されている。

根固め剤については、事前に配合比を検討した。これは遺跡の真実性の追究から、遺跡と同質性状の土(黒色土)を用いるため、十分な強度を得られるように配慮したためである。圧縮強度試験、館入硬度試験、耐久性試験、現地での暴露試験を行った。

環状列石A及びB、配石遺構群は、記録保存発掘調査で環状列石構築面の土層は残っていないので、構成礫の周囲を十分に保護できる範囲(礫から1m程度まで)に根固め剤を充填した。根固め剤はジオバスト(酸化マグネシウム固化剤)と、遺跡と同種の黒色土(5mm目篩)、山砂(水洗い済)を配合した。

環状列石C・Dについては、遺物が包蔵されている構築面が露出していたこともあり、遺構面保護のため、全面に根固め剤で覆うことになった。遺構面保護は広範囲に及ぶため、そのほかの施工箇所とは異なり、乾燥と篩を行わない黒色土を用いて、砂の混合を省略し、配合比を変えたものを使用し、経費を圧縮した。

第3節 各環状列石(配石遺構)の保存処理

環状列石Bについては、平成7年の発掘調査で礫を取り上げており、発掘図面と写真から復元を行った。

『基本計画』では、環状列石C・Dについて、発掘調査のための土層検証用ベルトの保存方法を確立できていなかったため、レプリカ設置も検討に入れていたが、基礎調査等を通して、保存や維持管理の方法を確立したことから、露出展示を行うことになった(表2)。

遺構名	洗浄	強化接合	復元	礫固定処理
環状列石A	○	○	—	礫周辺のみ
環状列石B	—	○	○	礫周辺のみ
環状列石C・D	○	○	—	ベルトと遺構面全体を保護
配石遺構群	○	○	—	礫周辺のみ

表2 遺構ごとの保存処理状況

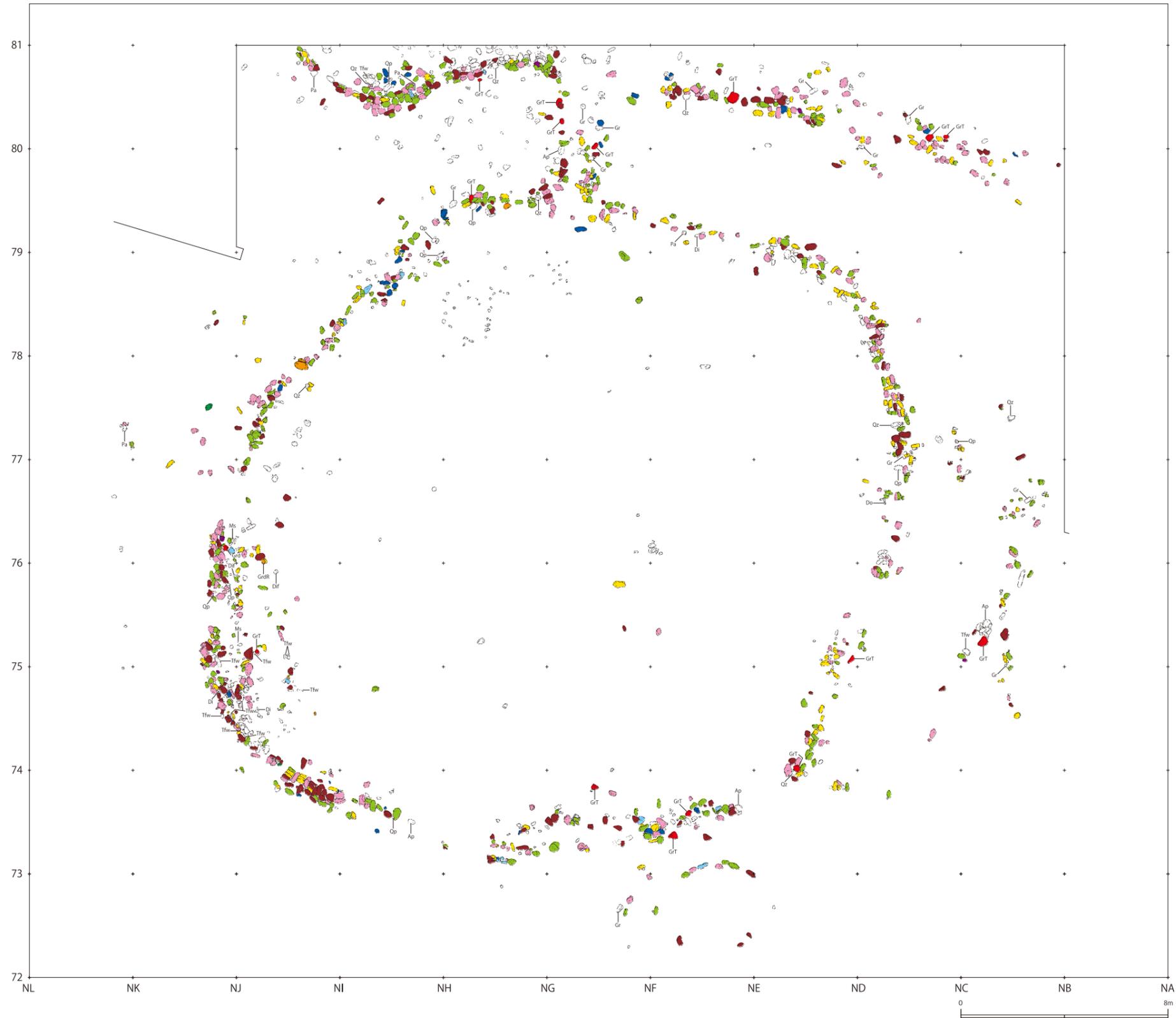


図11 環状列石A構成礫種分布図

第4節 掘立柱建物跡の復元

それぞれの環状列石の外周に6本柱の掘立柱建物跡46棟が検出されている。建物の性格については、マツリの施設・住居・倉庫・台上墓等、研究者によって様々な見解がある。大湯環状列石や御所野遺跡のように建物上部構造の復元も検討したが、史跡からみえる白神山地の眺望を重視するために、上部構造の復元は敢えて行わないことにした。

復元対象は、環状列石Cに伴う建物群の確認が遺跡の現地保存に繋がったこともあり、環状列石A南側とC北側の範囲に位置する6棟を選んだ(図12・13)。

復元方法は以下の3種類である。

- ①柱穴の発掘時検出面の状態(プラン)
- ②発掘時の柱穴完掘の状態
- ③柱穴に柱のみを立体表示する方法

これは、縄文時代の建っていた状態から、発掘調査で柱穴を検出し、完掘するまでのプロセスを表現したものである。建物に付随すると考えられる炉跡も復元した。

保護盛土中に基礎コンクリートを置き、その上にFRPで成型した柱や柱穴のレプリカをアンカーで固定し設置した。



図12 掘立柱建物跡復元配置図

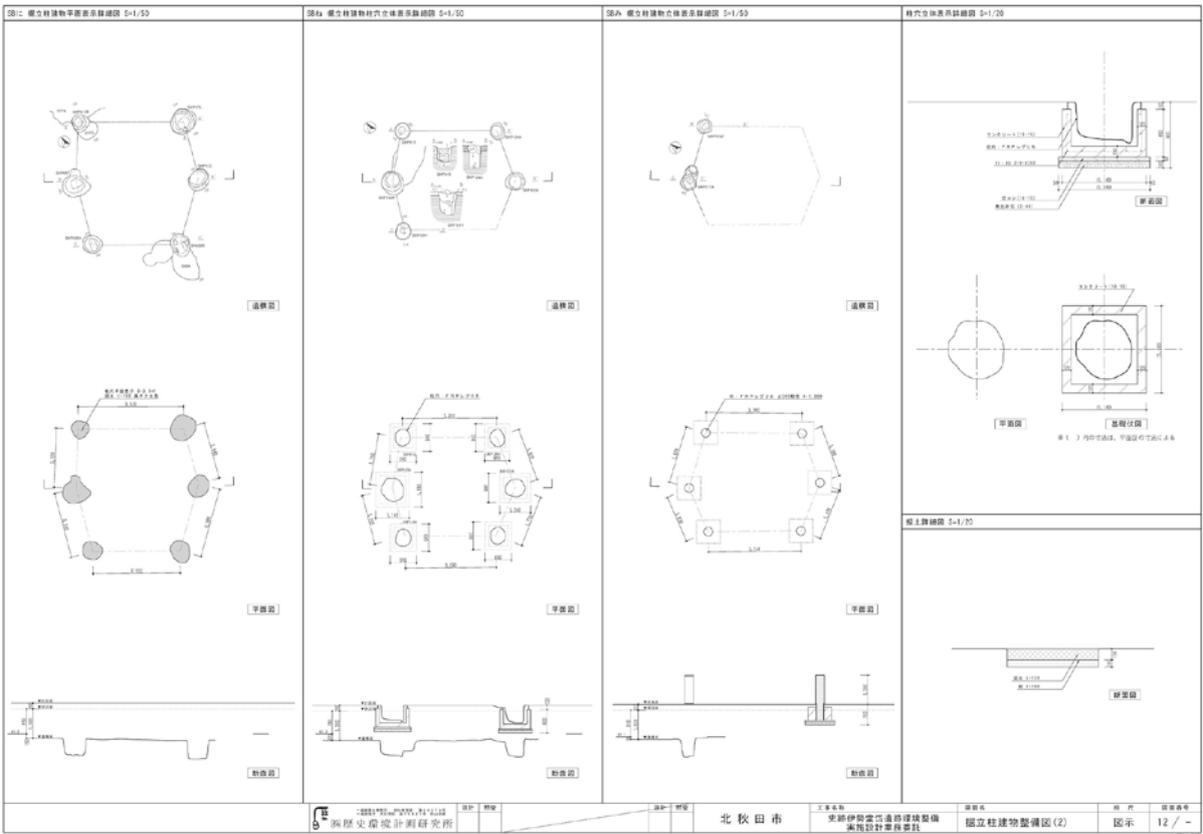
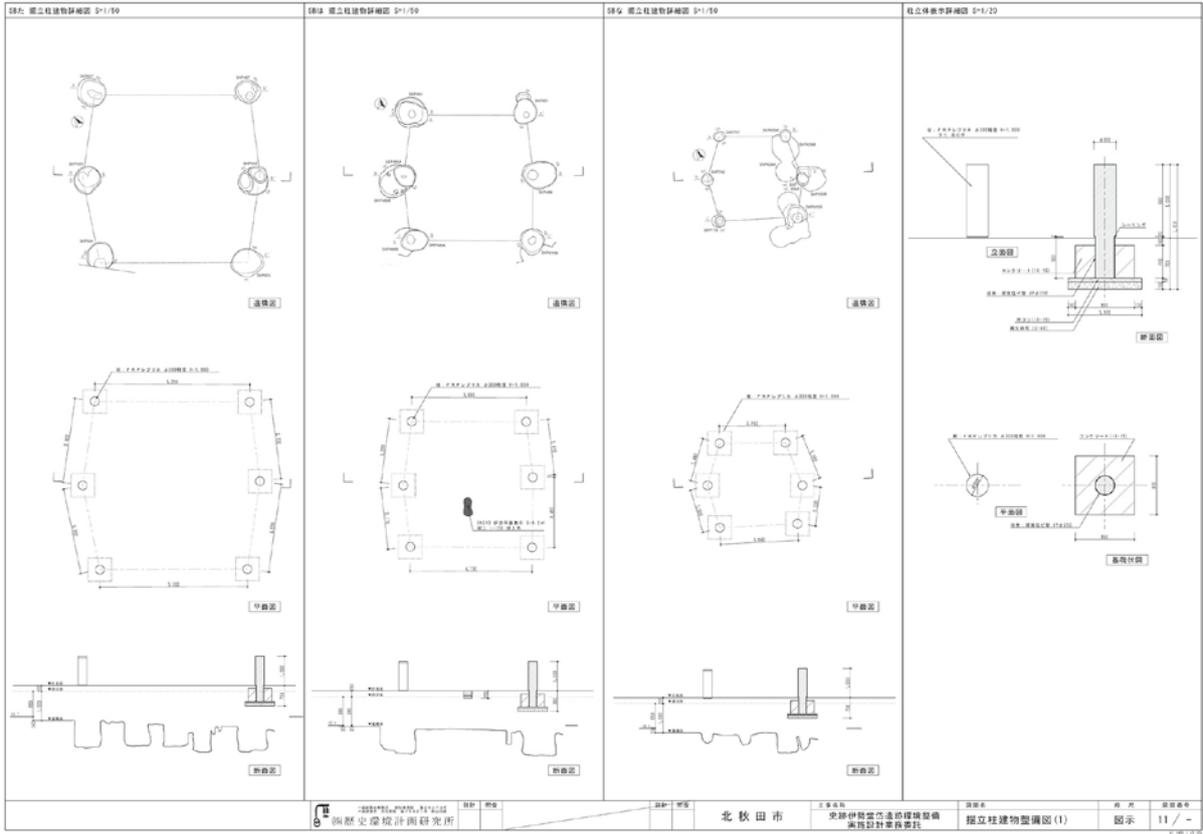


图13 掘立柱建物跡施工图

第5節 溝状遺構の表示

溝状遺構は、発掘調査で全容が把握されている溝状遺構S D05を対象とした。遺構は埋め戻しているため、現表土の上に植物（リュウノヒゲ）を植栽し、その範囲を表現した（図14）。

第6節 壕の保護

発掘調査で中世の可能性が指摘されていることから、遺構の保護のみを行う。20cmの盛土を行い、その上に張芝を行った（図15）。

第7節 園路の設置

環状列石は標高約45mの台地上に位置しており、ガイダンス施設の立地する地点とは10m近い比高があり、登坂については苦勞が付きまとう。このため、もっとも緩やかな沢を選び、園路を設置し、溝状遺構がある東部地区まで周遊できるようにした（図16）。

園路は枕木を用いた。平地は枕木をカスガイで連結した。斜面については枕木の間には碎石を充填し、階段状にした。

環状列石周辺については、園路は設けず、遺構保護のために20cmの盛土の上に張芝を行い、自由に見学できるように整備している。

第8節 サインの設置

サインは史跡標柱1基（図17）、配置案内板1基（図19）、遺構名称板5基（図18）、順路表示板6基（図20）の4種類である。

史跡内は景観上、高さを低く抑えたサインに工夫した。全てのサインには日本語と英語の2ヶ国語で表記している。

史跡標柱は「史跡名勝記念物等標柱設置基準規則」に基づいたものにした。

遺構名称板には素材は陶板で、QRコードを表示し、スマートフォンで読み込むことで、遺構の詳細説明のサイ



図14 溝状遺構

トへ誘導する工夫をしている。

第9節 橋梁の建設

史跡へのアクセスは、湯車川を渡らなければならない。整備前は発掘調査で利用した仮橋を利用していたが、度重なる河川の増水の影響で不安定な状況になった。このことから、園路整備の一環で、橋梁を架け替えることになり、橋梁は地質・地形を考慮し、仮橋より上流側に新設した(図21・22)。河川管理者である北秋田市建設部との協議で、橋梁本体は橋長L=19.000m、W=4.000mと決定した。

橋梁の基礎を保護する護岸がコンクリート製となっている。実施設計では景観の保護から石積の護岸も検討したが、橋梁基礎を覆っている西暦915年に噴火した十和田火山由来の火山泥流堆積物が水流に弱いことから、コンクリート製の護岸を選んだ。

橋梁は完成後に「縄文渡橋」(じょうもんわたりばし)と命名した。

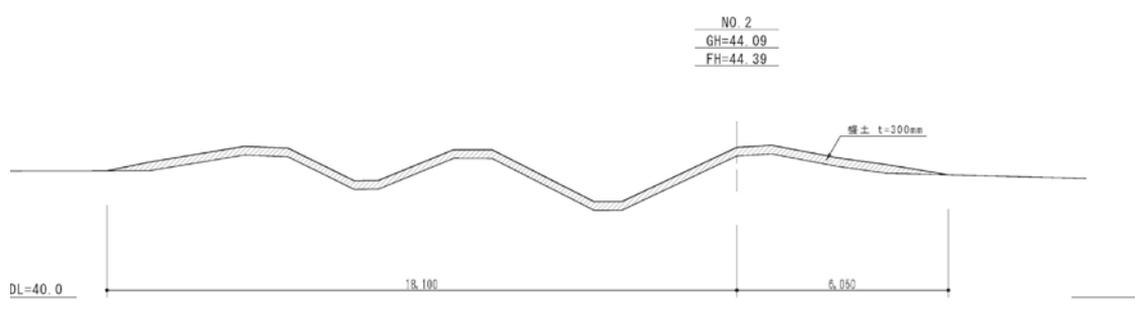
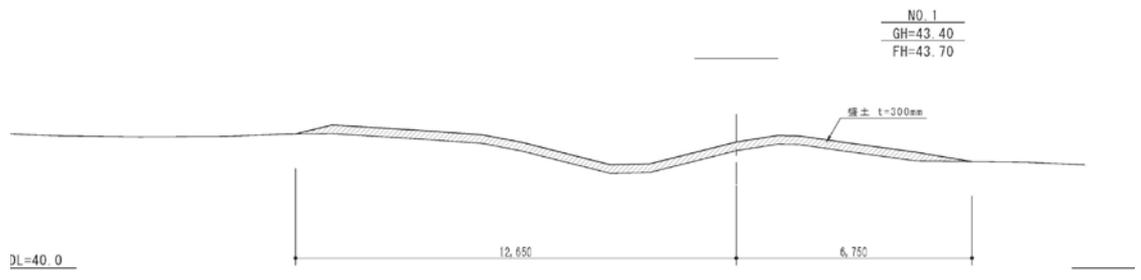
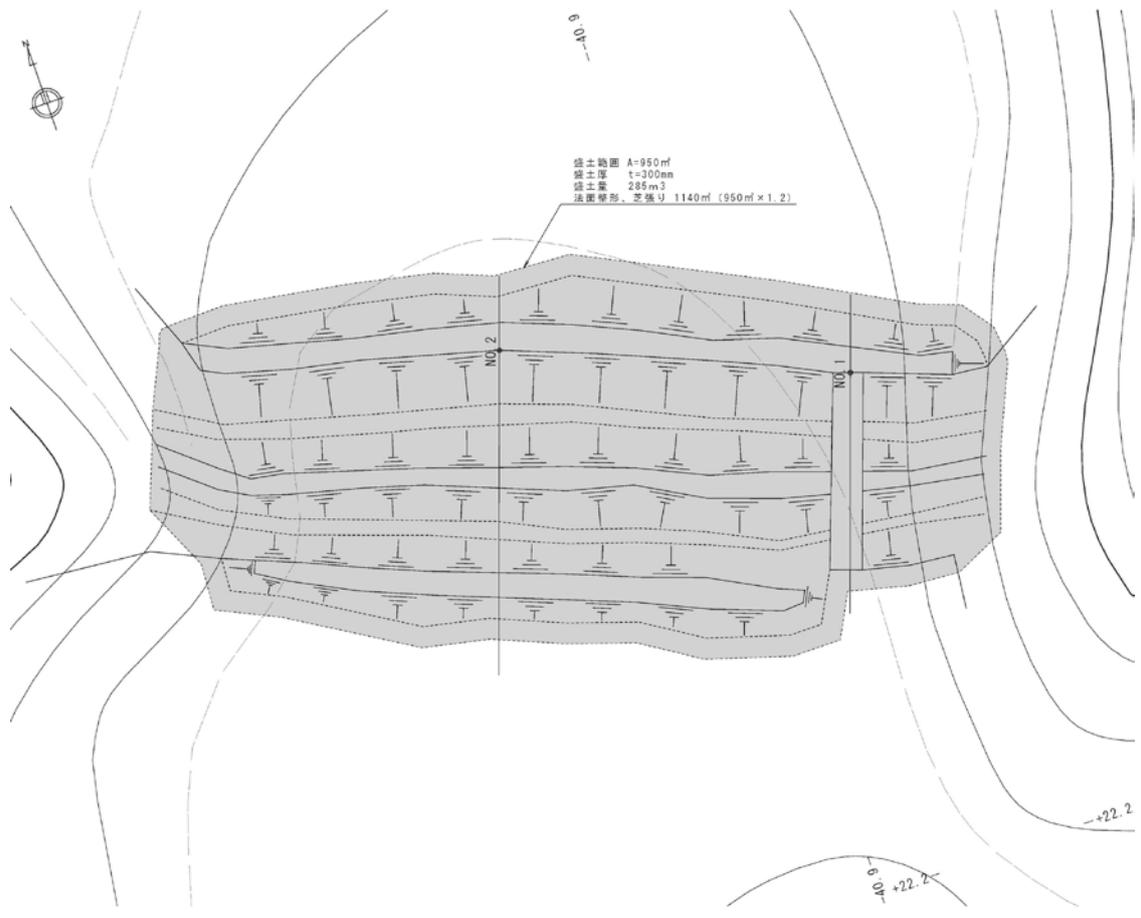


图15 環壕施工圖



図16 園路施工図

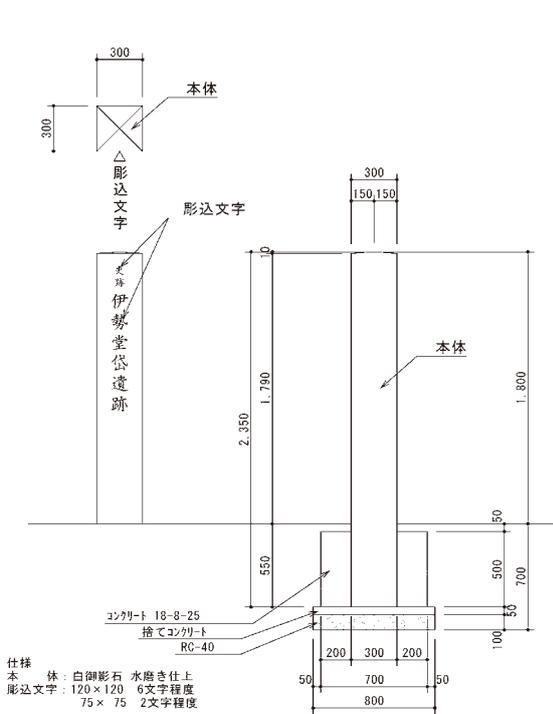


図17 史跡標柱

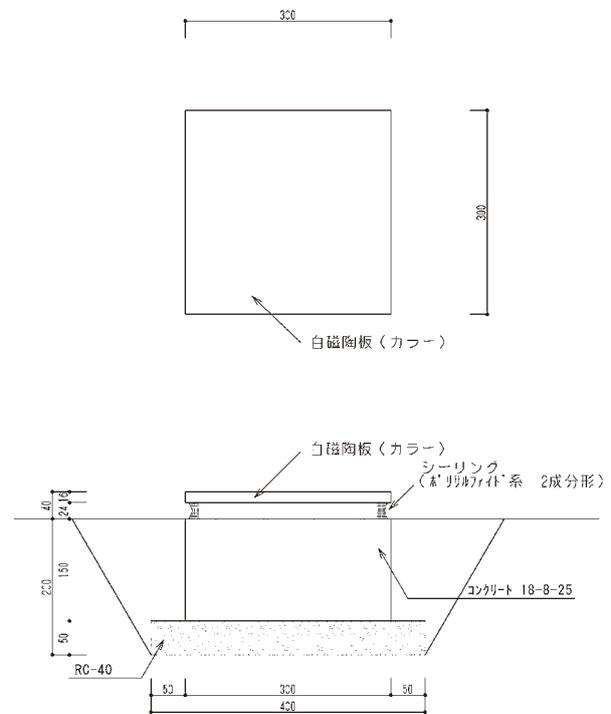


図18 遺構名称板

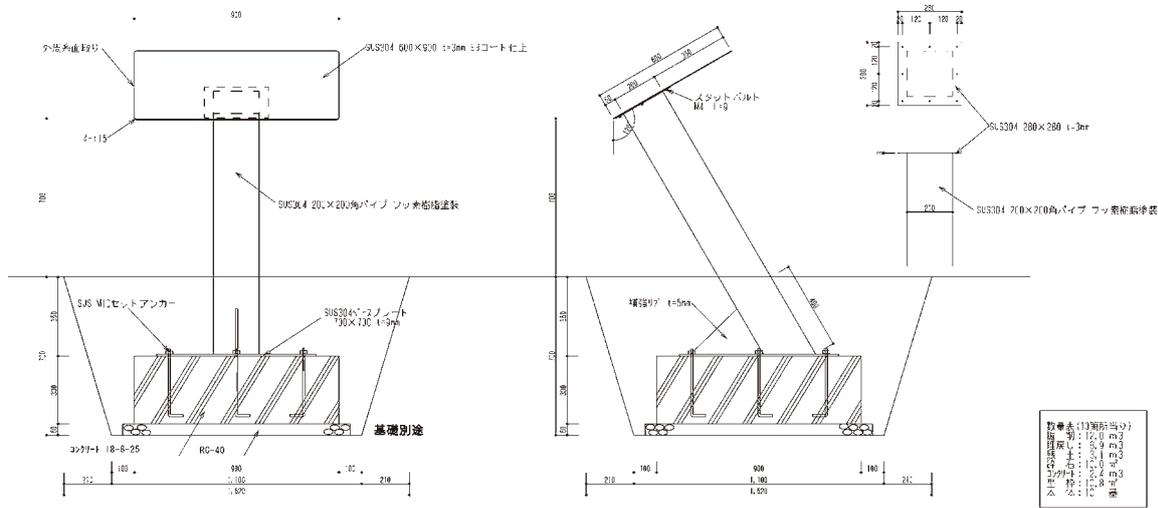


図19 配置案内板

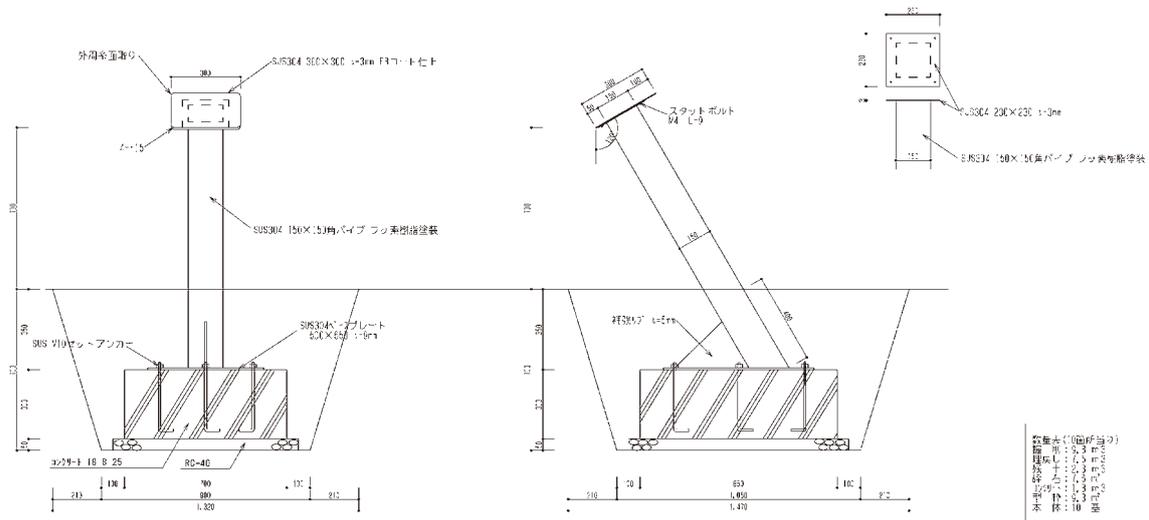


図20 順路表示板

第5章 伊勢堂岱縄文館建設

第1節 建設方針

『基本計画』では、来訪者へのサービス施設として、遺跡に関する展示や解説を行うガイダンス施設の機能を有するとともに、体験学習等遺跡の活用拠点としてガイダンス施設(図23)を以下のように計画した。

①展示室

出土品等の展示によって縄文時代の「伊勢堂岱遺跡」を中心に解説する。

②体験学習

施設内で土器づくり、石器づくりなどの体験を行う。

③活動計画の立案・発信

計画の推進にあたり、市民参加を得て、活動計画の企画立案、情報発信、運営、評価など、構想の頭脳中枢を果たす場とする。

④ボランティアの育成拠点

里山の育成管理や遺跡の維持管理のボランティアの育成活動拠点場とする。

⑤サービス拠点

ホームページなどによる本事業の受発信、特に利用者の声を聞く受信事業の対応を図る。

⑥交流拠点

北秋田市において新たな交流拠点として活用する。

⑦調査拠点

調査の拠点となるため、発掘調査から出土品管理までの作業が可能となる設備が求められる。

⑧便益施設

来訪者の休憩、トイレサービスなどの拠点とする。

このような計画を踏まえ、平成25年度に実施設計を行い、平成26年度に建築工事を、平成27年度に展示工事を行った。ガイダンス施設の名称は、整備検討委員会で複数案を検討した上で、「伊勢堂岱縄文館」と命名した。

第2節 建築工事

(1)ガイダンス施設の配置

ガイダンス施設は、史跡整備の地区区分計画(図10)では、遺跡バッファゾーンの外側の導入及び施設建設ゾーンに位置する。県道から導入路に入った駐車場の北西側に配置した(図24・25)。建物の向きや出入口の位置は駐車場と遺跡の関係に配慮したが、特に冬の降雪期の気象条件に配慮し、東西方向に雪が落ちるように建物を配置した。

(2)施設のコンセプト

①建物の形状(図27～31)

周囲の景観に調和しかつ冬の積雪を考慮した屋根の形とし、存在感のあるデザインとすることにした。

構造は鉄筋コンクリート造の単純な柱、梁構造とした。このシンプルな形態は建物の建設費及び維持費軽減に大きく貢献する。

外壁廻りの高気密・高断熱化を図り、空調設備もシンプルな床下ダクト方式を採用した。省エネルギーのエコ化と同時に、快適な室内環境を創出した。

②部屋の配置 (図26)

建物の風除け室を兼ねたエントランスホールを設け、南北に出入り口を設け駐車場及び遺跡への出入口とした。このエントランスホールから西側の室内に入ると、受付カウンターを介してガイダンス室（体験学習室も兼ねる）及び展示室へとつながる。受付カウンターに沿ってミュージアムグッズを販売するコーナーを設け、後部にはボランティア控室も兼ねた事務室を設けた。また、エントランスホールの東側にトイレを配し来訪者の利便を図った。

③室内の空間

室内の天井は、東西方向に大きな円弧を描く屋根の形に合わせ、天井面にはLEDの照明器具のみを吊るした。

空調用の器具は室内になく、壁際もしくは床からの吹出口のみで構成されているので、無駄なものはなくすっきりした室内を創出した。

室内の仕上げは展示室を除いて、壁には秋田杉を、床はブナ材を使用し、木材の持つ温かみのある柔らかな空間を醸し出す。

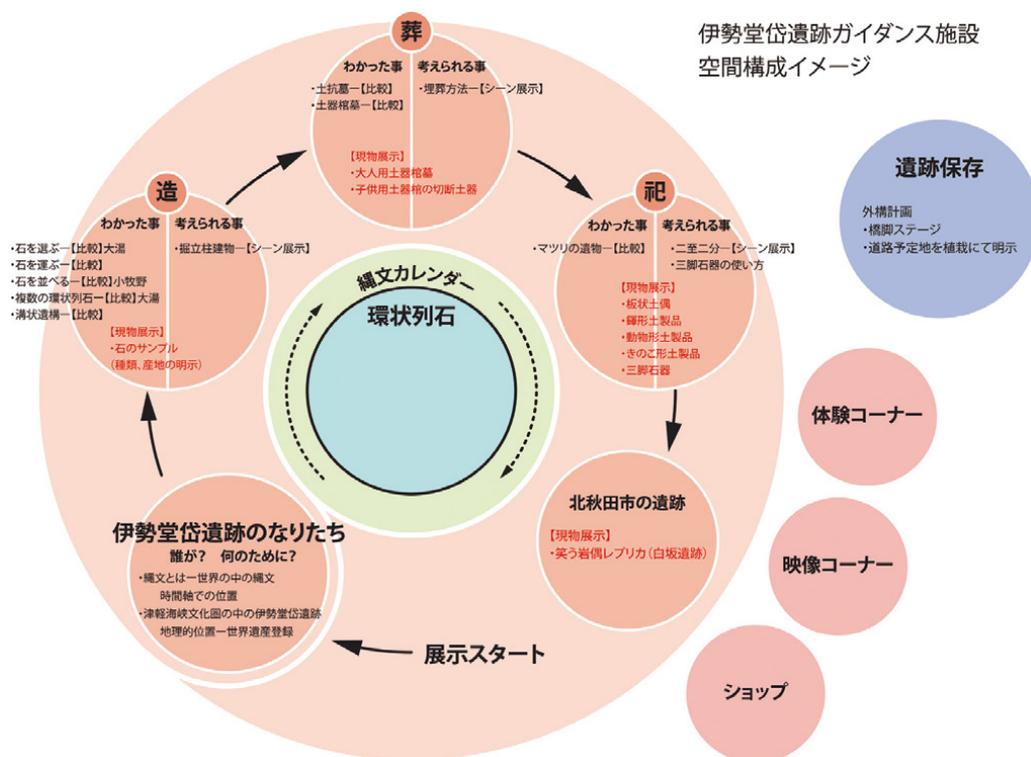


図23 ガイダンス施設の空間構成イメージ

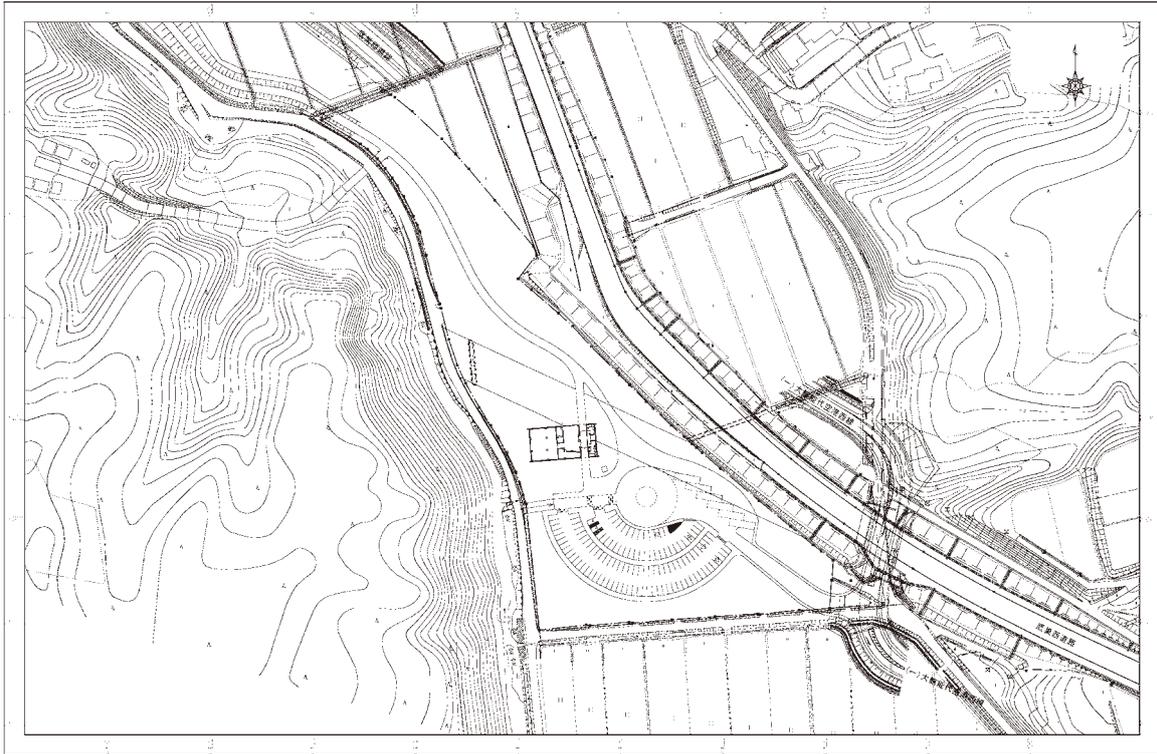


图24 建筑配置图

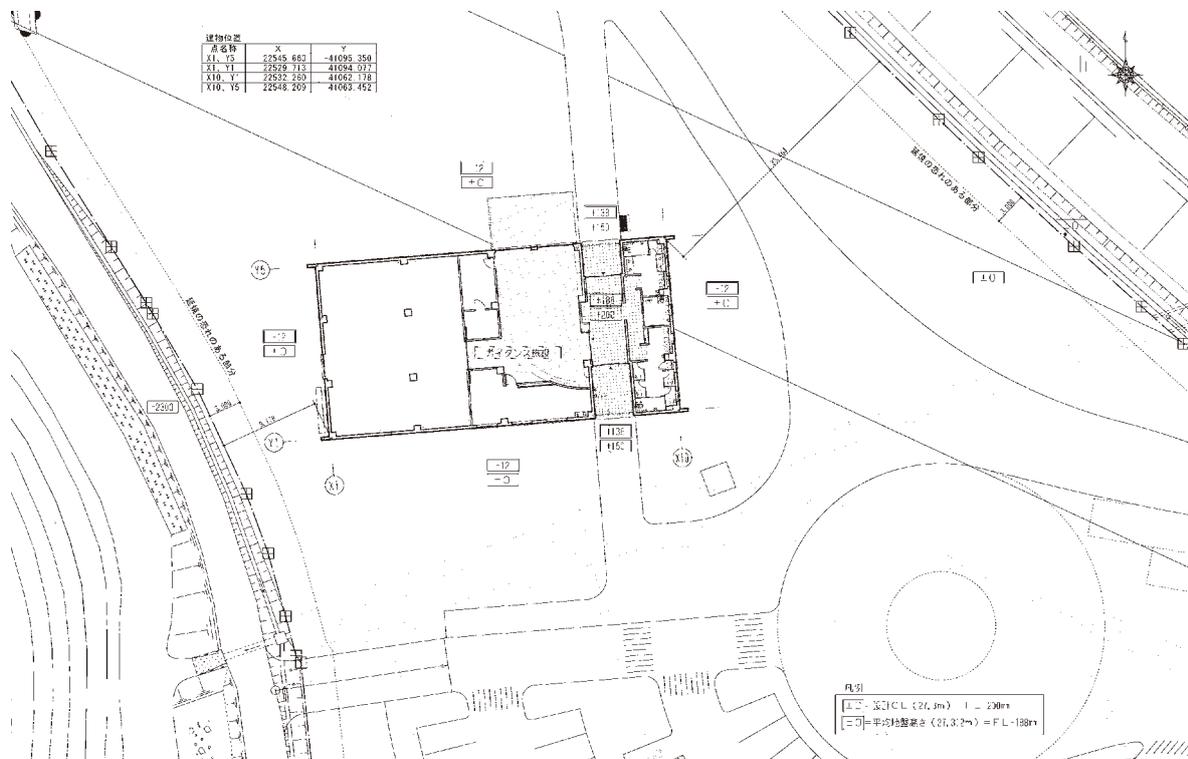


图25 建筑平面图

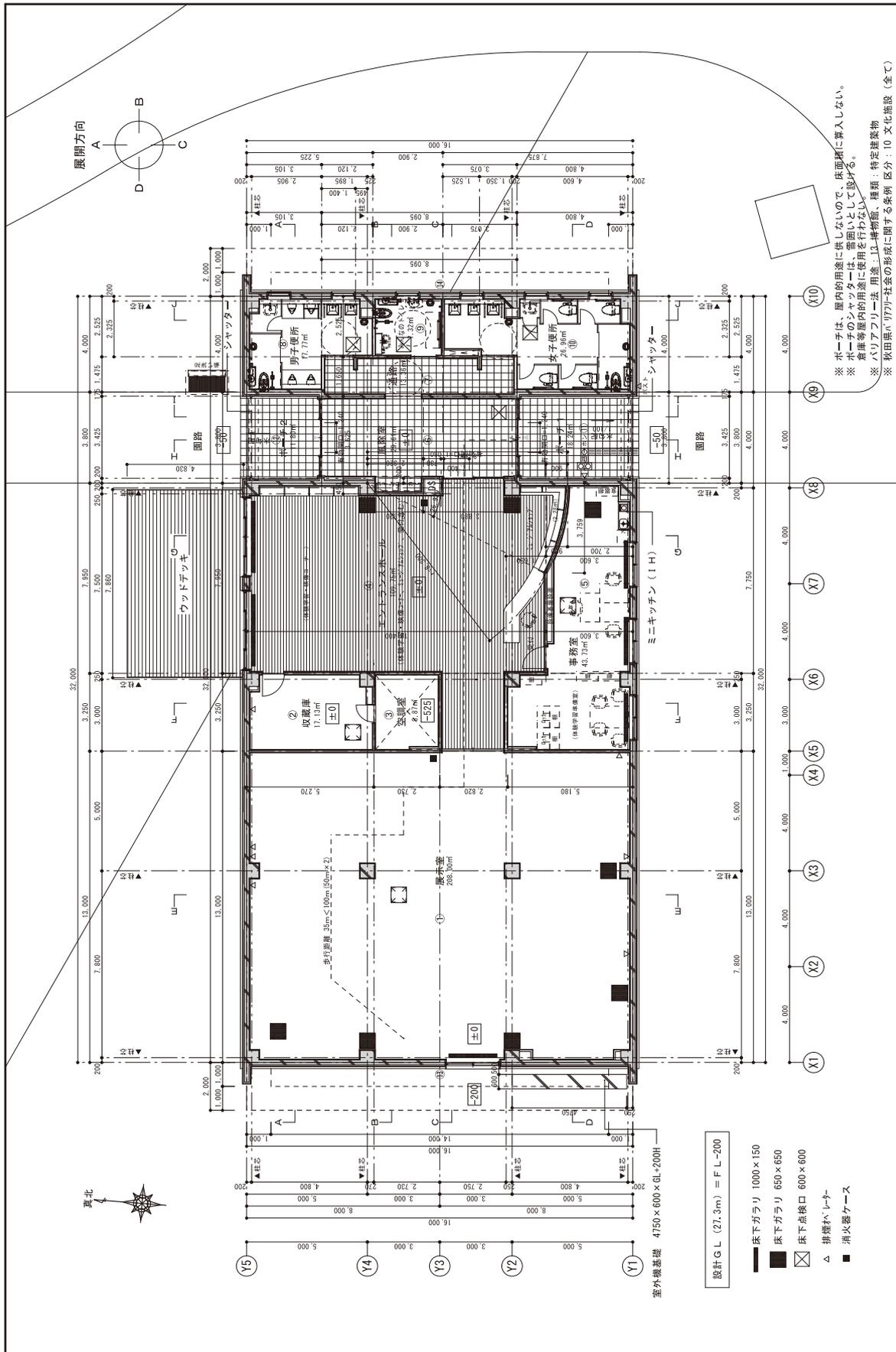
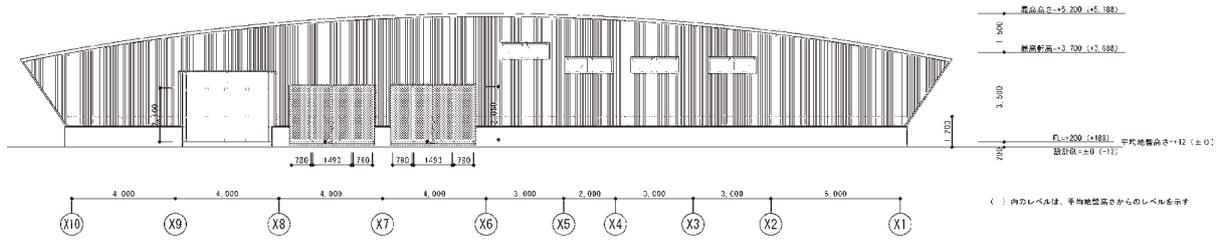
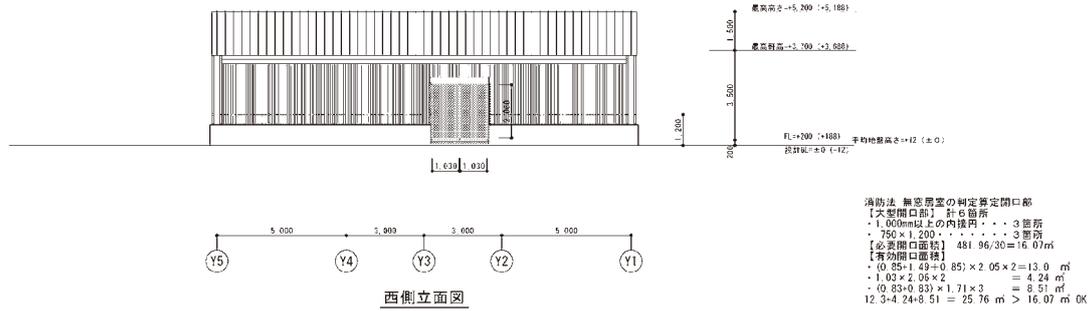


図26 建築平面図

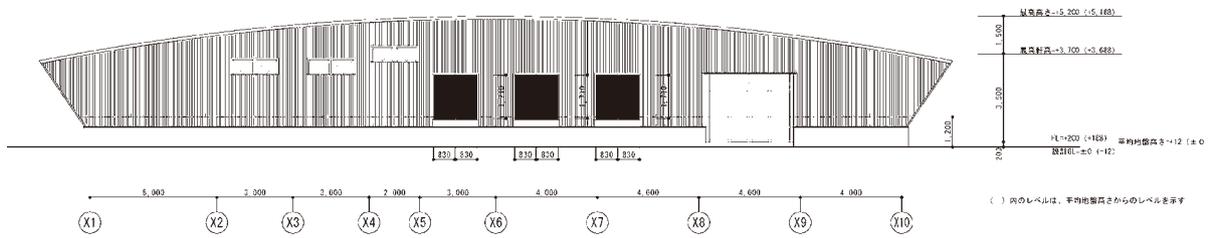


北側立面図

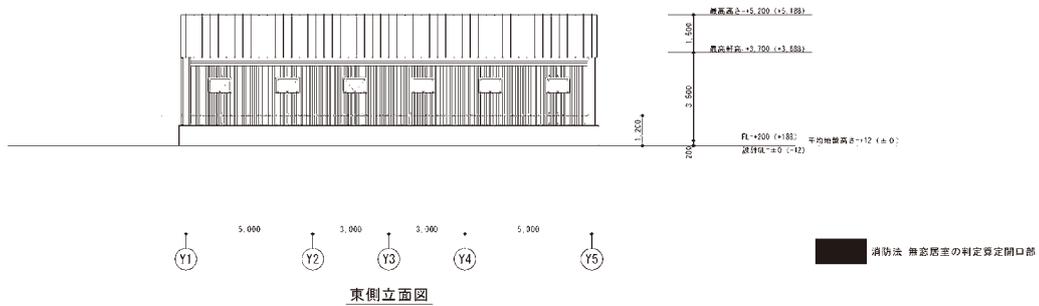


西側立面図

図27 建築立面図（北面）



南側立面図



東側立面図

図28 建築立面図（南面）

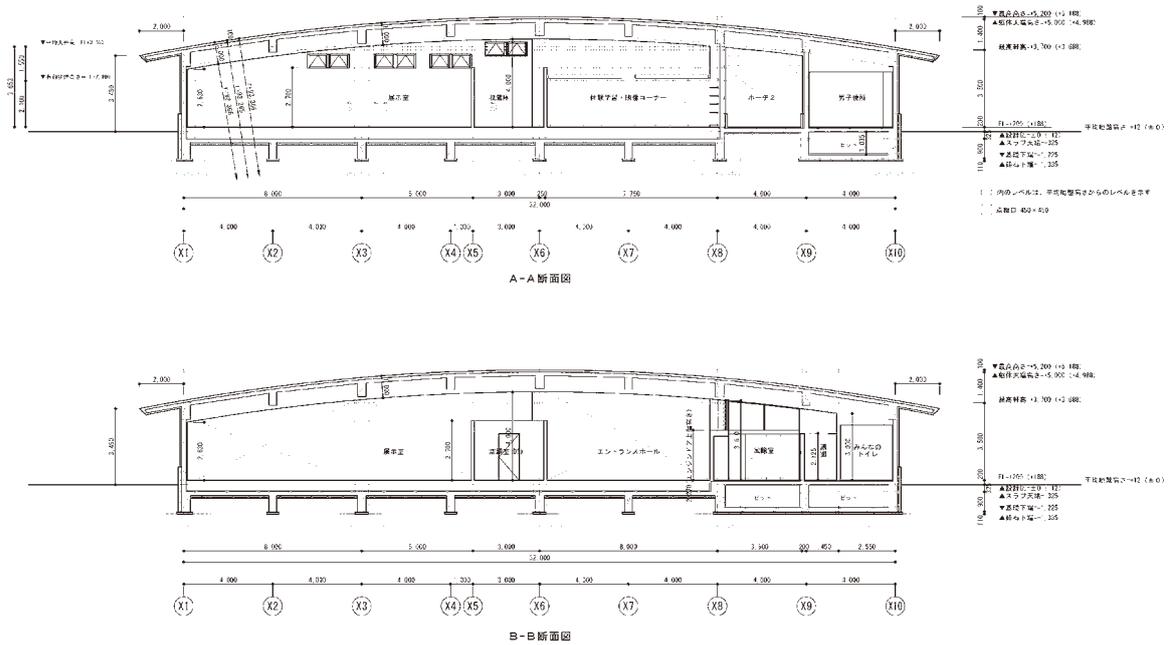


図29 建築断面図

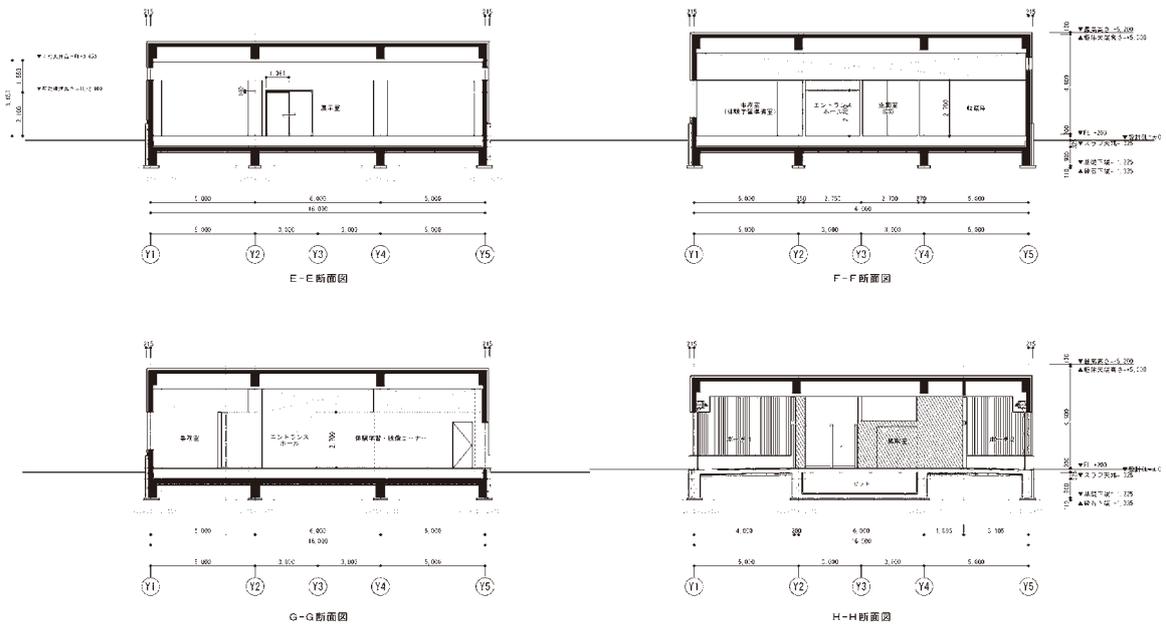


図30 建築断面図

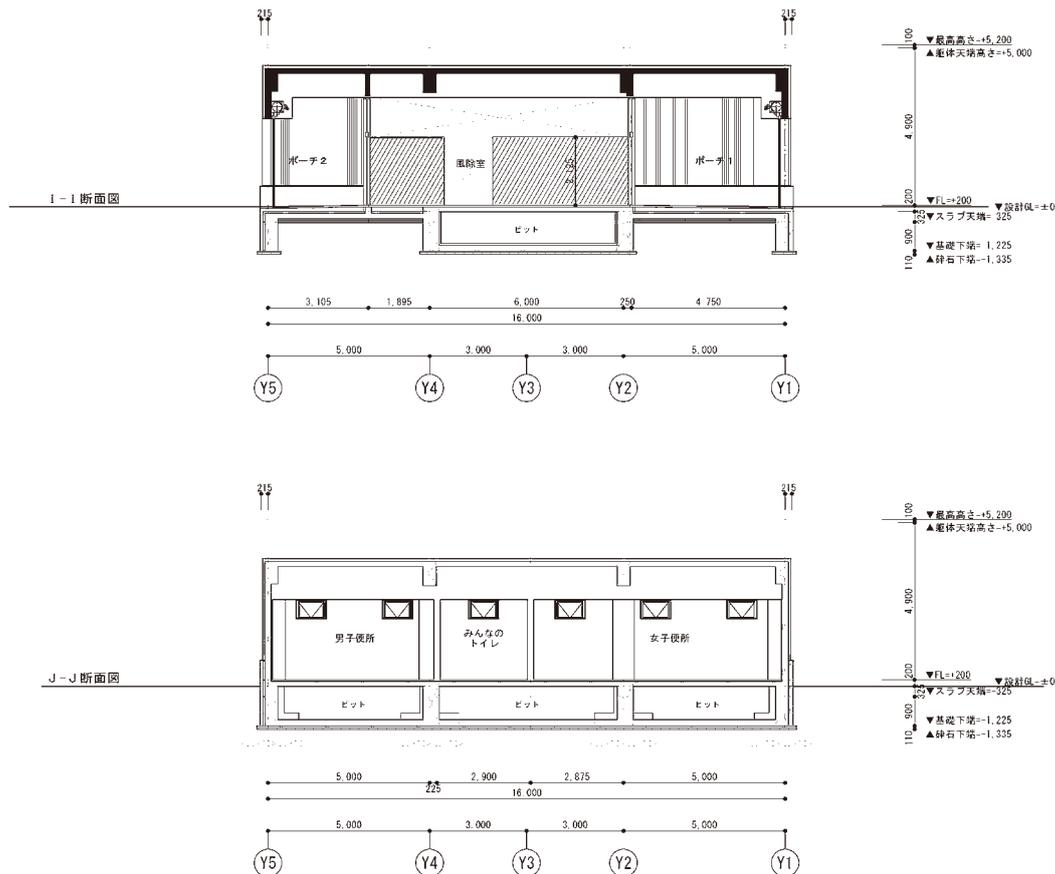


図31 建築断面図

第3節 設備工事

設備工事には、電気設備・空調設備・衛生設備工事が含まれるが、本工事では特に現代に相応しい新しい空調設備の手法を導入し環境に配慮した（図32～34）。

(1) YUCACO(床チャンバー方式)システムの採用

- ・イニシャル・ランニングコストともに小さく、快適性にも優れている。冬季に体験教室や講座を開催する時に床が暖かいことは、とても魅力的である。
- ・空調室に設置した3台の壁掛けエアコンの暖気・冷気(・送風空気)が、最大40台のDCモーターファンにより床下空間に供給される。
- ・暖気・冷気(・送風空気)は、床吹出口から室内全体に供給され、緩やかなアール天井に沿って頂部へ流れ、空調室に戻っていく。

(2) 換気の方法と熱回収の徹底

- ・新鮮な空気はエアコン上部から導入され、エアコン経由で床下に入り、床吹出口から出て建物全体に供給される。
- ・リターンの空気はロスナイに入ったのち、直接屋外に排出せず、風除け室天井に吹出す。そののちトイレから排気する。

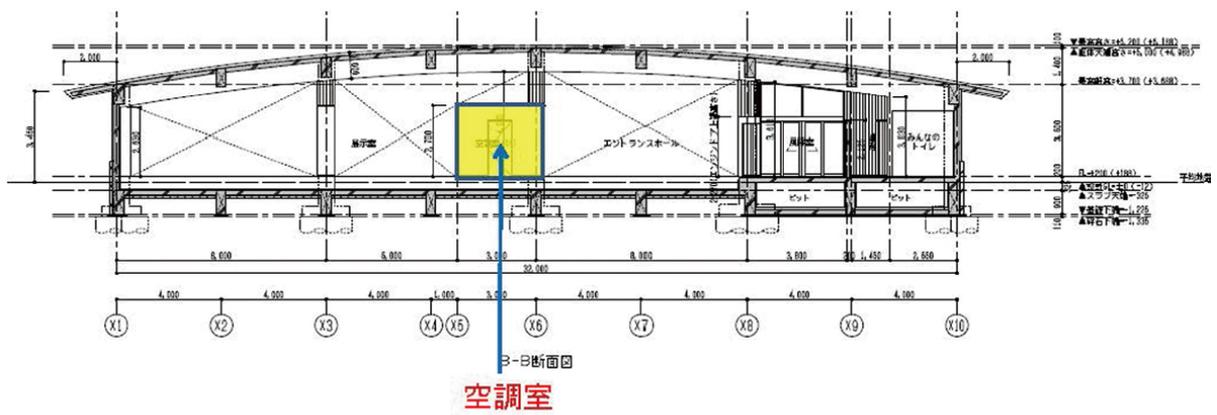
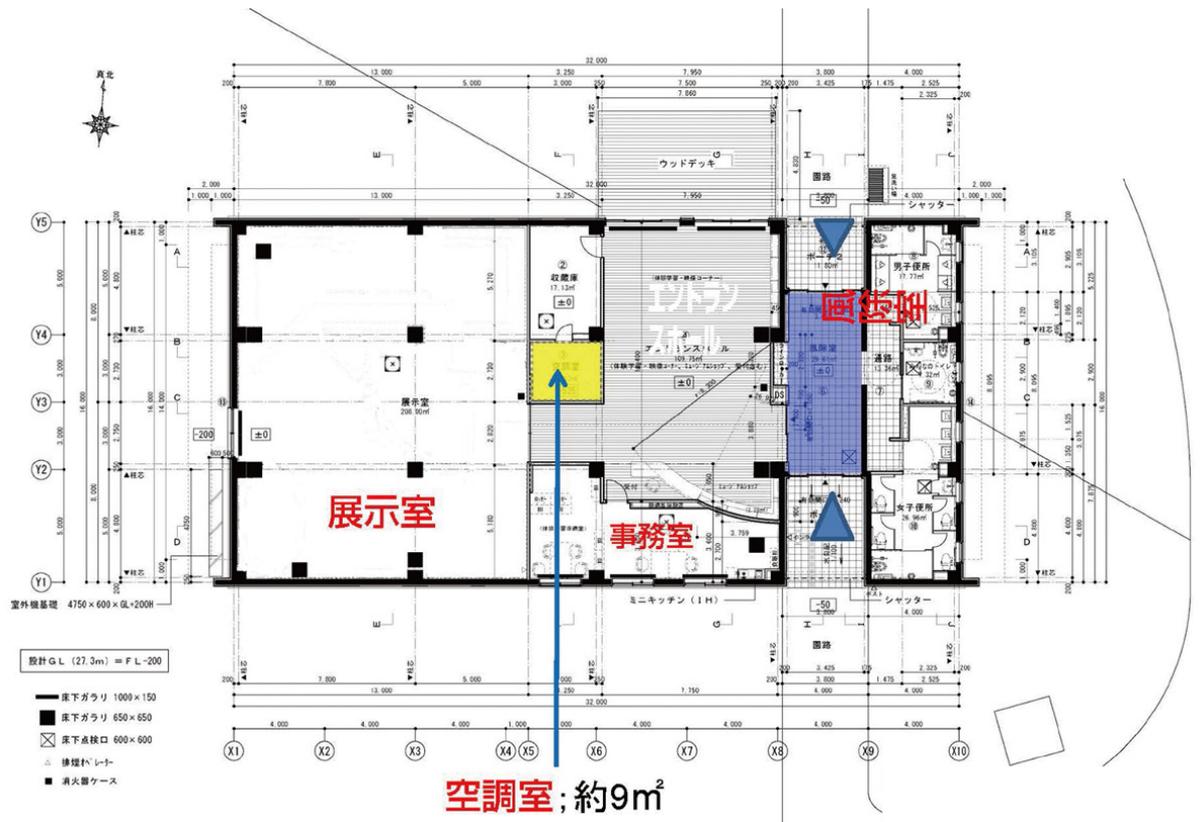


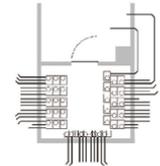
図32 床チャンバー方式システムの配置図



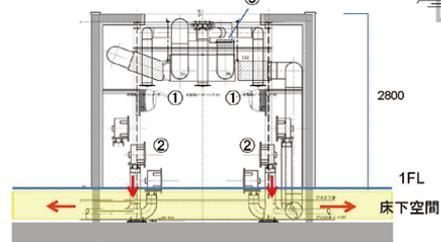
壁芯から1メートルで切られたダクト。ここから吹き出し開始。



- ①エアコン: 冷房能力10kW・暖房能力11.2kW × 3台
- ②DCモーターファン (FY32JD7/47種商品) × 40台
- ③全熱交換型換気扇 × 1台



実施設計
平面模式図:
40台のファン配置

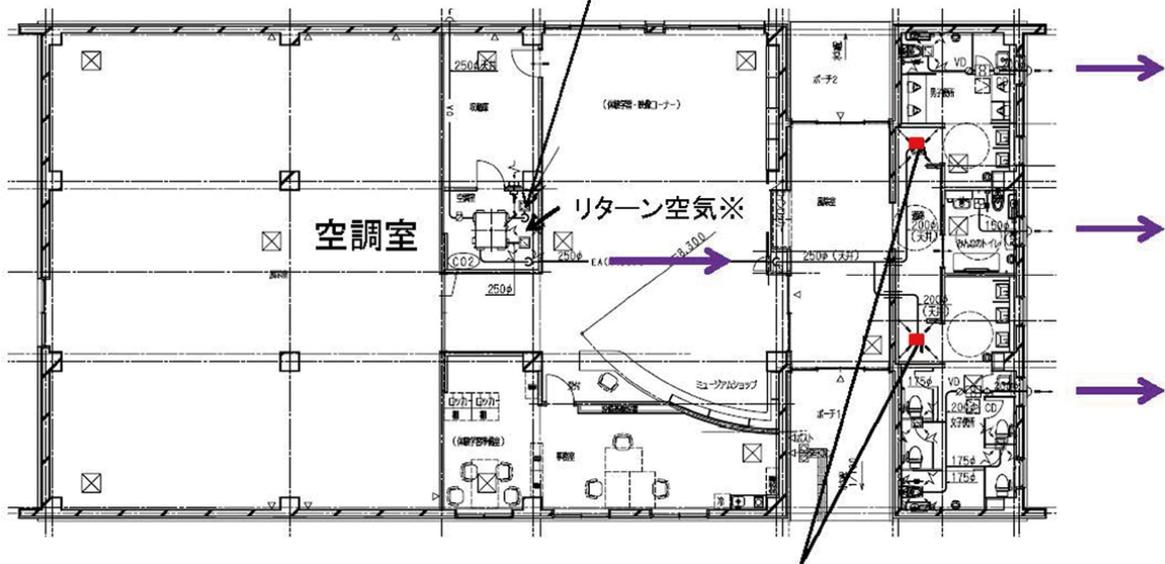


空調室 断面図

新鮮空気



新鮮空気はエアコン上部から導入され、エアコン経由で床下に入り、床吹出口から出て建物全体に供給される。



※リターンの空気はロスナイに入ったのち、直接屋外に排出せず、風除室天井に吹出す。そののち、トイレから排気する。

図33 空調構造図

第4節 展示工事

展示室の面積は208㎡である(図35)。

見学者は導入として、エントランスホールに設置した84インチの大型モニターで、ガイダンス映像(制作：NHKエデュケーショナル、監修：小林達雄整備検討委員長)を視聴することになる。映像は20分(日本語版のみ)の長さで、遺跡の概要についてアニメーションを多用し、わかりやすく説明したものである。普段はリピート再生で放映している。なお、5分版(日本・英・韓国・中国語)はYouTube「北秋田市公式チャンネル The Official channel of Kitaakita」でも公開中で、世界各地からアクセスがある。

展示室は有料(一人200円・10人以上の団体の場合一人150円)となっている。高校生以下は無料とした。

展示の章立ては

1. 発見！伊勢堂岱遺跡 Discovery！ Isedotai site
2. 遺跡を読み解く Reading the Isedotai site
3. 縄文のココロとカタチ The Jomon minds and forms
4. 土偶 Dogu
5. 伊勢堂岱遺跡の未来をみつめて Looking to the future of the Isedotai site

展示室に入ると、伊勢堂岱遺跡を象徴する板状土偶の巨大モニュメントが見学者を迎える。土偶を忠実に再現したものであり、細部まで観察できる。胸部に時計をはめ込み、記念写真撮影として利用できるようにした。

1章から3章までは写真や図、解説を中心としたものである。印刷技術の向上や、写真画像も高精細になったことから、壁面全体を利用した展示が可能となった。説明文については日本語と英語の2カ国語で表記している。英語に精通した考古学研究者に作成を依頼し、アメリカ合衆国出身の市職員による校正を経ている(図36～43)。

4～5章は出土品やジオラマが中心である。展示ケースは展示替えが容易に可能な構造にしている。縄文文化の出土品は小形のものが多いこともあり、展示ケースは背面に遺物を接写し、引き伸ばした写真パネルを展示することで、出土品の特徴を強調することができる。4章では伊勢堂岱遺跡を象徴する板状土偶の実物を展示している。それだけでなく、北秋田市内から出土した縄文時代後晩期の土偶もいっしょに展示することで、多様な土偶を比較できる。展示されている48点の土偶の人気投票も行っており、好評を博している。

伊勢堂岱遺跡のジオラマは遺跡全体を範囲に製作した。そのため縄文人のフィギュアはかなり小さいが、携帯電話のカメラやデジタルカメラは1人1台に普及しており、それらで接写することで、フィギュアの所作を確認することができるのである。ハンズオン展示／参加型展示や、写真撮影を可能にし、見学者がSNSで情報を拡散したくなるような仕組みづくりを心がけた。

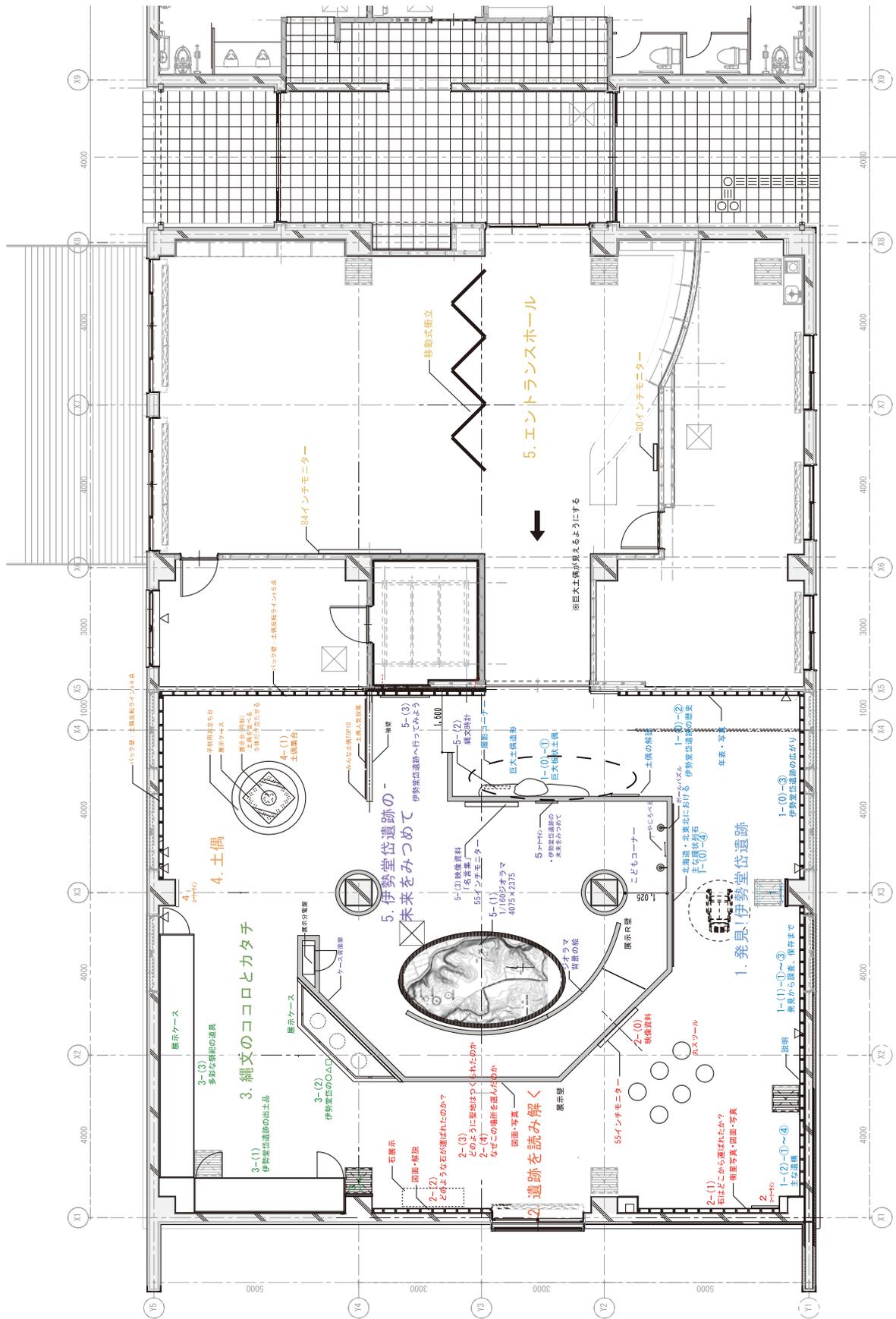


図35 展示配置

巨大板状土偶 Giant Slab-shaped Dogu

実物の板状土偶は高さ 19cm、肩幅は 16cm、厚さは 1cm です。
この模型は 12 倍でつくられています。

環状列石 B の周りの土坑墓の中から、頭部と胴部分かれて出土しました。頭の上の 2 つの穴は髪型を表現しています。

伊勢堂岱遺跡では 200 点近くの土偶が出土していますが、どれも破片で、完全なかたちに復元できたものは、この 1 点のみです。

Slab-shaped dogu (clay figurine) are 19 centimeters in height, 16 centimeters in width at the shoulders, and 1 centimeter thick. This replica is 12 times as large as an actual piece.

The head and body of this clay figurine were unearthed separately from pit graves at Stone Circle B. The two perforated holes on the head represent its hair style.

Nearly 200 dogu were discovered from the Isedotai site. Most of them, however, were broken into pieces. This is the only figurine that was able to be perfectly restored to its original shape.



史跡 伊勢堂岱遺跡

伊勢堂岱遺跡の歴史

The display panel provides a detailed historical timeline of the Isedotai site. Key events include:

- 1972年4月**: Initial discovery of the site.
- 1973年**: Excavation of the site, revealing the stone circle and surrounding structures.
- 1974年**: Further excavations and the discovery of the slab-shaped dogu.
- 1975年**: Publication of the site's history.
- 1976年**: Establishment of the site as a National Historic Site.
- 1977年**: Excavation of the stone circle.
- 1978年**: Excavation of the stone circle.
- 1979年**: Excavation of the stone circle.
- 1980年**: Excavation of the stone circle.
- 1981年**: Excavation of the stone circle.
- 1982年**: Excavation of the stone circle.
- 1983年**: Excavation of the stone circle.
- 1984年**: Excavation of the stone circle.
- 1985年**: Excavation of the stone circle.
- 1986年**: Excavation of the stone circle.
- 1987年**: Excavation of the stone circle.
- 1988年**: Excavation of the stone circle.
- 1989年**: Excavation of the stone circle.
- 1990年**: Excavation of the stone circle.
- 1991年**: Excavation of the stone circle.
- 1992年**: Excavation of the stone circle.
- 1993年**: Excavation of the stone circle.
- 1994年**: Excavation of the stone circle.
- 1995年**: Excavation of the stone circle.
- 1996年**: Excavation of the stone circle.
- 1997年**: Excavation of the stone circle.
- 1998年**: Excavation of the stone circle.
- 1999年**: Excavation of the stone circle.
- 2000年**: Excavation of the stone circle.
- 2001年**: Excavation of the stone circle.
- 2002年**: Excavation of the stone circle.
- 2003年**: Excavation of the stone circle.
- 2004年**: Excavation of the stone circle.
- 2005年**: Excavation of the stone circle.
- 2006年**: Excavation of the stone circle.
- 2007年**: Excavation of the stone circle.
- 2008年**: Excavation of the stone circle.
- 2009年**: Excavation of the stone circle.
- 2010年**: Excavation of the stone circle.
- 2011年**: Excavation of the stone circle.
- 2012年**: Excavation of the stone circle.
- 2013年**: Excavation of the stone circle.
- 2014年**: Excavation of the stone circle.
- 2015年**: Excavation of the stone circle.
- 2016年**: Excavation of the stone circle.
- 2017年**: Excavation of the stone circle.
- 2018年**: Excavation of the stone circle.

図36 展示パネル (1)

伊勢堂岱遺跡の広がり The extent of the Isedotai site

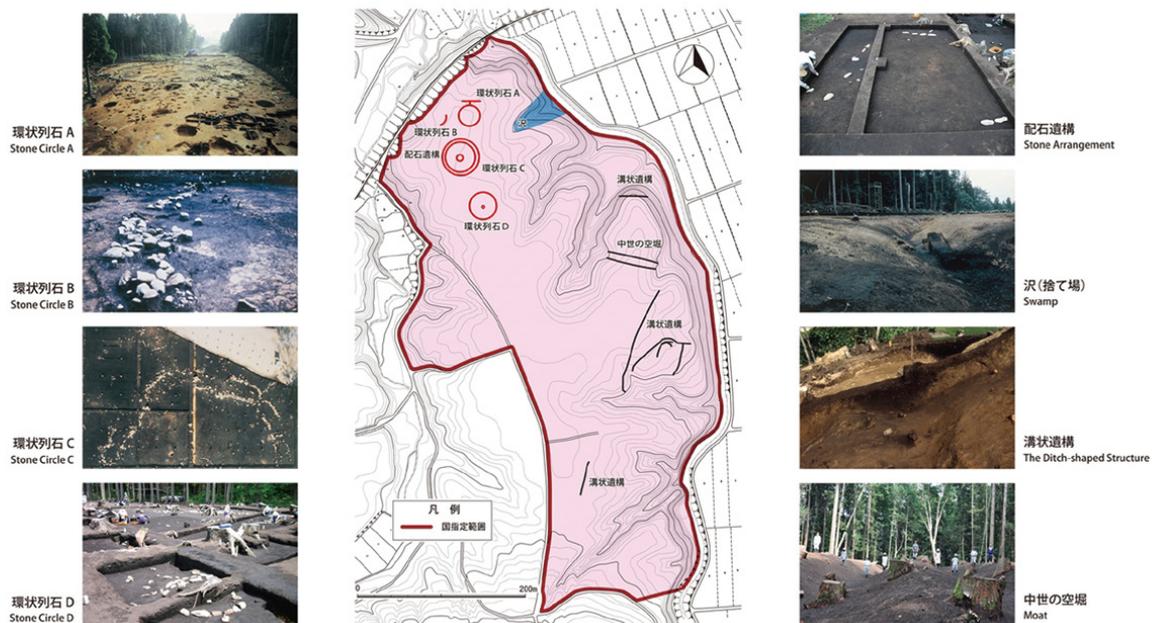


図37 展示パネル(2)

(1) 発見から調査、保存まで

伊勢堂岱遺跡は大館能代空港アクセス道路東西線建設に先立つ発掘調査で平成4年に発見されました。平成7年から秋田県埋蔵文化財センターが発掘調査を行い、平成8年に縄文土器や石器とともに多くの石組みが見つかったことから、環状列石を中心とした遺跡であることがわかりました。



秋田県埋蔵文化財センターの発掘調査で3つの環状列石が確認されました。このことから地域住民や県民から遺跡の保存の声が高まり、平成8年11月に在庁長官久治村田知事(当時)が道路計画中止を決定し、遺跡を現物保存することに決定しました。

These three stone circles were found as a result of the excavations conducted by the Akita Prefectural Archaeological Center. Local community members and citizens of Akita Prefecture voiced their desire to conserve the Isedotai site. Kikui Sasaki, the governor of the prefecture at that time, called a halt to the construction of the access road, and decided to preserve this archaeological site.



平成9年から青森町教育委員会が発掘調査を継続し、平成12年には4つ目の環状列石口を確認しました。その成果から平成13年に国の史跡に指定されました。

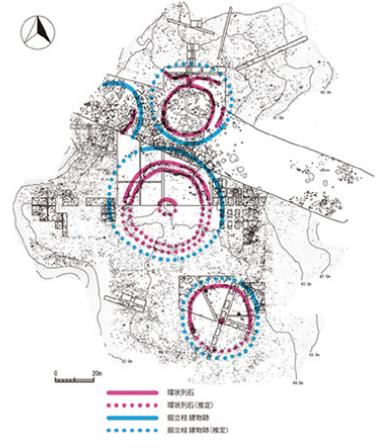
As of 1997, the Board of Education of Tanosuru Town took over excavations, and the fourth stone circle (Stone Circle D) was discovered in 2000. Thanks to the success of the excavations, the Isedotai site was designated as a national historic site in 2001.

Discovery, Excavation and Conservation

The Isedotai site was discovered by a preliminary excavation before the construction of an access road to Odate Noshiro airport in 1992.

Since 1995 the Akita Prefectural Archaeological Center has conducted excavations of the site. In the excavation of 1996, pottery, lithic tools, and many stone arrangements from the Jomon period were found. Based on these findings we recognized that the stone circles were at the core of this site.

遺構分布図



(2) 主な遺構

伊勢堂岱遺跡は縄文時代後期(今から4000年前)の祭祀遺跡です。環状列石をはじめ、配石遺構・掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構、落とし穴が検出されています。遺跡は約200年間利用されました。本遺跡は広大な台地で掘削・盛土や、溝状遺構といった地形改変を行い、4つの環状列石を造っていることから、縄文時代の集団祭祀を明らかにするための重要な遺跡と考えられています。

環状列石 Stone Circles (Kanjō Reseki)



縄文人的な石を置き、大きな円をつくっています。石の下には土層があります。さらに、石の裏りからは祭祀の道具が出土することから、環状列石は土に埋められた器蓋とごうらうため、歌や踊りなどのマツリ(マツリ)の場として使われたと考えられています。伊勢堂岱遺跡では、環状列石(ストーンサークル)が4つ発見されています。4つとも発見されているのは、国内でも他にありません。発見された順番に環状列石A・B・C・Dと命名されています。

Jomon people brought many stones to this site from rivers, and built large circular stone arrangements. Under the stones, pit graves were discovered. Furthermore, ritual objects were found around the stone circles. It is therefore thought that these stone circles were used as ritual spaces for dance and song in order to mourn the passing of the deceased and ancestors.

At the Isedotai site, 4 stone circles were unearthed in all - a number unprecedented anywhere else in the country. According to the order in which they were found, they were named Stone Circles A, B, C and D.

掘立柱建物跡 Earthen Post Structures (Hotatebasira Tanomori)



環状列石の周囲を取り囲むように、掘立柱建物跡がみつかっています。建物跡は6本の柱穴で、同じ場所にも何度も繰り返し建てられました。マツリ(マツリ)の場、平地式住居、貯蔵施設や、台上墓(毛がり墓)などの説があります。

Earthen post structures were discovered surrounding the stone circles. Each building has 6 main pillars, bored into the ground. Some buildings were repeatedly rebuilt at the same place. There are various interpretations about the function of these earthen post structures, ranging from buildings for ritual activities (matsumori), fire land dwellings, storage facilities, or structures in which the dead were put or laid on (Mogagiri).

Primary Remains of Structures

The Isedotai site is a ritual site from the late Jomon Period, around 4000 years ago. Stone circles, stone arrangements, earthen post structures, ditch-shaped structures, remains of roads, and pit traps were all found. This site had been in use for almost 200 years.

This site has 4 stone circles with large-scale land reclamation, such as excavation, terracing, and digging the ditch-shaped structure, and it has been considered to be an important archaeological site to illustrate communal ritual activities in the Jomon era.

配石遺構 Stone Arrangements (Haiseiki Iko)



環状列石より小さな石組を配石遺構と呼んでいます。円形のものなど様々な形状があり、環状列石より発掘では、自然に形成されたものが多くみつかります。本遺跡の配石は、自然に形成された環状列石の中心を軸としながら、夏至の日の入りになります。伊勢堂岱遺跡にもそのような仕組みが隠れているのかもしれない。

Stone arrangements are smaller than stone circles. They have a variety of shapes such as round or square-shaped. On the east side of the stone circles, a sundial-like stone arrangement was discovered.

At the Oyu stone circles, on the summer solstice, the sun sets on the horizon on a line extending between two sundial-like stone arrangements and the centers of two stone circles. Many secrets may be hidden in the relationship between the movements of the sun and the spatial arrangement of the structures at Isedotai.

溝状遺構 The Ditch-shaped Structure (Mizojō Iko)



遺跡の東側では幅1m、深さ1m、最大のもので長さ100mの溝状遺構がみつかりました。この溝の東側からは特別な土器が検出されていないことから、別の目的から作られたとは推測されています。秋の祭りのない時代にこれだけの労力を費やすことは、多大な努力を必要と考えられ、多くの人が関わったと考えられます。

In the eastern area of this site, a ditch-shaped structure measuring 100 meters in length, 1 meter in both width and depth, was found. Around this structure no other remains were found. The function of this ditch-shaped structure remains a mystery of the Isedotai site.

Since we know that Jomon people had no iron tools, the construction of this ditch required a great investment of communal labor. It is thought that many people took part in this large-scale work of engineering.

図38 展示パネル(3)

(1) 石はどこから運ばれたか？ Where did they get stones from?

伊勢堂岳遺跡の環状列石Aは、1,300個の河原石でつくられています。これらの石を縄文人はどこから運んできたのでしょうか？

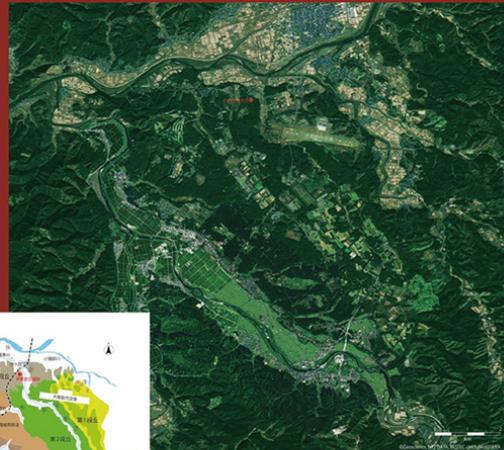
調査研究の結果、5 km 以内の河川等から運んできたと考えられます。

Stone Circle A at the bedsite site is made of 1,300 river stones. Where did the Jomon people bring these stones from? As the result of field investigations around the site, it has been confirmed that the stones were carried to the site from rivers within a 5 kilometer radius.



環状列石Aより北側で複数の道路状遺構が発見されています。縄文時代の地層で土が固くしていました。縄文人はソリのようなもので石を運んだのかもしれませんが。

On the north side of Stone Circle A, remains of roads with groove-like depressions were discovered. The surfaces of roads in the Jomon period were hard packed. The Jomon builders might have used equipment like sledges to transport stones.



段丘堆積物・遺跡・河川床堆積物の礫種構成

伊勢堂遺跡	河川床堆積物	遺跡
100-1000μm	100-1000μm	100-1000μm
1000-2000μm	1000-2000μm	1000-2000μm
2000-3000μm	2000-3000μm	2000-3000μm
3000-4000μm	3000-4000μm	3000-4000μm
4000-5000μm	4000-5000μm	4000-5000μm
5000-6000μm	5000-6000μm	5000-6000μm
6000-7000μm	6000-7000μm	6000-7000μm
7000-8000μm	7000-8000μm	7000-8000μm
8000-9000μm	8000-9000μm	8000-9000μm
9000-10000μm	9000-10000μm	9000-10000μm
10000μm以上	10000μm以上	10000μm以上

(2) どのような石が選ばれたのか？

What kind of stones did they select?

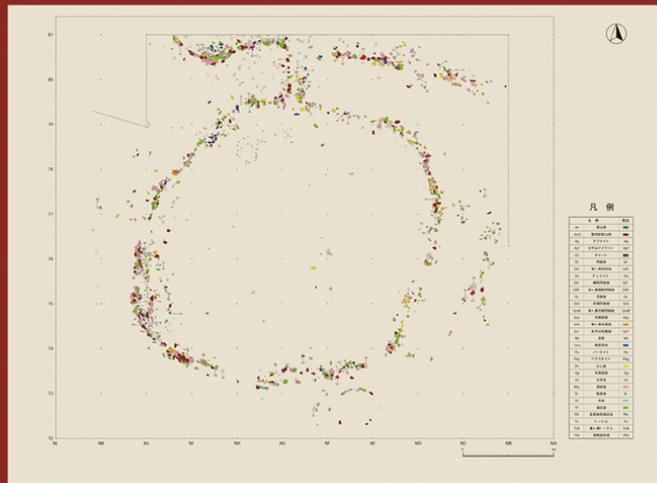
環状列石の石を1つずつ調べてみると、20種類を超える石が使われていることがわかりました。

青、白、黄色など、様々な色の石が使われています。焼いて赤色に変化させた石もあることから、さまざまな色を混ぜカラフルな環状列石を作ろうとしたのかもしれませんが。

一方、大湊環状列石では緑色の石を好んでいたようです。同時代の環状列石で石の色の好みが違うのは興味深いことです。

Petrological observations revealed that over 20 kinds of stone were used for the stone circles. We can see a variety of colors, for example, blue, white, and yellow. Some other stones were burnt a red color.

Contrastingly, green-colored stones seem to be preferred at the Oyu stone circles. It is interesting that stone circles from the same period show a different choice of color.



環状列石に使われた石の種類を色分け『伊勢堂岳遺跡発掘調査報告書Ⅵ』より

図39 展示パネル（4）

(3) どのように聖地はつくられたか？ How did they create a sacred space?

伊勢堂岱遺跡は舌状台地につくられました。直径 30m以上もある4つの環状列石は互いに離隔していますが、集まり合うところがあります。縄文時代の人は計画的に列石を配置したのです。そのために十分な平坦地を確保する必要があります。環状列石の構築に先立ち、土地の一部を掘り下げてその上で盛土をすることで、広い平坦地を作り出しています。

環状列石は円内の土を削って埋地にしています。環状列石で削った土を周りに盛って、その上に石を並べていることがわかっています。

近年では、厚く堆積した黒色土（クロボク土）は縄文人による山焼きや野焼きによる可能性も指摘されています。

The Isedotai site is located on a tongue-shaped hill. The 4 large stone circles, each over 30 meters in diameter, are situated next to each other, however they never overlap. This shows the well-planned spatial layout of the Jomon people. This spatial arrangement requires large, flat land enough to erect these large stone circles. They had to level parts of the site by a process of excavation, leveling and leveling before the construction of the stone circles.

The inside of stone circles were scraped away and depressions made. At Stone Circle C, scraped earth from the center circular space was used to prop up the low bank, before the stones were set on it.

In recent years, it is suggested that thick black soil (andou) is evidence of burning in mountains or in open fields.



(4) なぜこの場所を選んだのか？ Why did they decide to construct stone circles here?

伊勢堂岱遺跡の面積はおよそ20万㎡であることが発掘調査で判明しています。遺跡には広大な平坦地があるにもかかわらず、環状列石は台地北西部の狭い範囲に集中しています。

台地の縁辺部という特定の場所にこだわった理由は何か？

Excavations have revealed that the Isedotai site encompasses an area of approximately 200 thousand square meters. However, the 4 stone circles are concentrated in the northwest area. That could have been the reason behind the strong attachment to this particular zone at the edge of the hill?



(1) 伊勢堂岱遺跡の出土品

Excavated Artifacts from the Isedotai Site



図40 展示パネル（5）

(2)伊勢堂岱の○△□

Artifacts form ○△□



(3)多彩な祭祀の道具

A variety of ritual tools in the Jomon



伊勢堂岱遺跡は未来に伝えていかなければならない貴重な遺産です。私たちは下記のような行動計画に基づいて遺跡を守り、子どもたちに継承していきます。

The Iseodotai site is a valuable heritage which should be passed on to future generations. We have made a plan of action to protect this site, and to preserve its landscape for our children as follows;

遺跡を守る

Conservation of the Archaeological Site



伊勢堂岱遺跡は全体の 10% を発掘しました。遺跡を後世に残すため、未発掘の部分を守ることはもちろん必要です。それに加えて、文化的価値を伝えるために遺跡を公開することも、史跡保護のための重要な活動です。

実物の現状を公開するために、石の状態は常に点検されており、定期的な洗浄処理も実施されています。

We have excavated around 10 percent of the total area of the Iseodotai site. In order to pass this site down through the generations, we naturally must protect the unexcavated area as well. In addition, the opening of the site to the public – so that the cultural values of the Iseodotai site may be shared – is also an important activity for the sake of its preservation. In order to exhibit the actual stone circles, the condition of all the stones is consistently checked, and a wash treatment of the stones is regularly conducted.

景観を守る

Conservation of the Landscape



遺跡からは、白神山(世界自然遺産)をはじめとした北側の美しい山々が一望できます。この景観を守るために、看板等の現代の人工物は最小限に留めています。

平成8年に仕込まれた道路が、日本海沿岸東北自動車道の一部として使用されることになりました。秋田県は遺跡からの景観に配慮するため、道路を地味な色で塗装して遺跡からみえないようにしました。景観を守るためこのような方式を採用することは、日本では大変珍しいことです。

From the Iseodotai site, you can enjoy a panoramic view of the Shirakami Mountains (a World Heritage Site) to the north. In order to conserve this landscape, modern, artificial structures, such as advertising signs, are kept to a bare minimum. The access road, which was diverted in 1996 to utilize as a part of the Honshu-etsun Tohoku Expressway, The Akita Prefecture Government, in showing deference to the view from the Iseodotai site, agreed to construct the road partially underground to conceal it from the site. Such deference to protect the landscape is largely unheard of in Japan.

伊勢堂岱縄文館

The Iseodotai Jomon Museum



本館は、遺跡と縄文文化を紹介する情報発信基地であるとともに、地域の学習拠点でもあります。本館では電力を効率的に使用するために、床下チャンバーステムを採用しました。24時間一定の温度・湿度を保つことで、展示品を保護し、館内での快適な教育活動を可能にしています。

This museum is a base from which to introduce both this site and the Jomon cultures, as well as a community learning place. We employ an air-conditioning system under the floor in order to use electric power efficiently, keeping the temperature and humidity constant is suitable for conserving the exhibits, and this system also creates a comfortable indoor environment for educational activities.

縄文人のココロを現代に伝える

The Jomon Mind



縄文館と遺跡の間を流れる海軍川には、10月下旬から11月上旬にフケが遡上します。縄文人もこの自然の恵みを大いに利用したに違いありません。現在は稚魚の放流を毎年行っています。

縄文時代の現状例石には地域の人々が集まり、筒孔やマツリを行っていました。4000年前の歌や、私達も一緒に集まりマツリを開催しています。縄文まつりでは歌や踊りが披露され、自然とともに暮らした縄文人の生活の知恵を体験することができます。毎年9月第2週目の土曜日は是非お越しください。

During late October and early November, salmon swim up the Yugurama River that runs between the site and the museum. Surely the Jomon people must have exploited this blessing of nature. Every year we release juvenile salmon into the wild.

In the Jomon period, people of the community gathered in the stone circles for ritual activities and festivals. Now, around 4000 years later, we also gather in the Iseodotai site and hold a festival. This festival features dances and songs inspired by the Jomon cultures, and gives us an opportunity to gain the wisdom of the integrated ecological lifestyle of the Jomon period. We sincerely hope that you can join our Jomon festival which is held on the second Saturday of September every year.

図41 展示パネル(6)

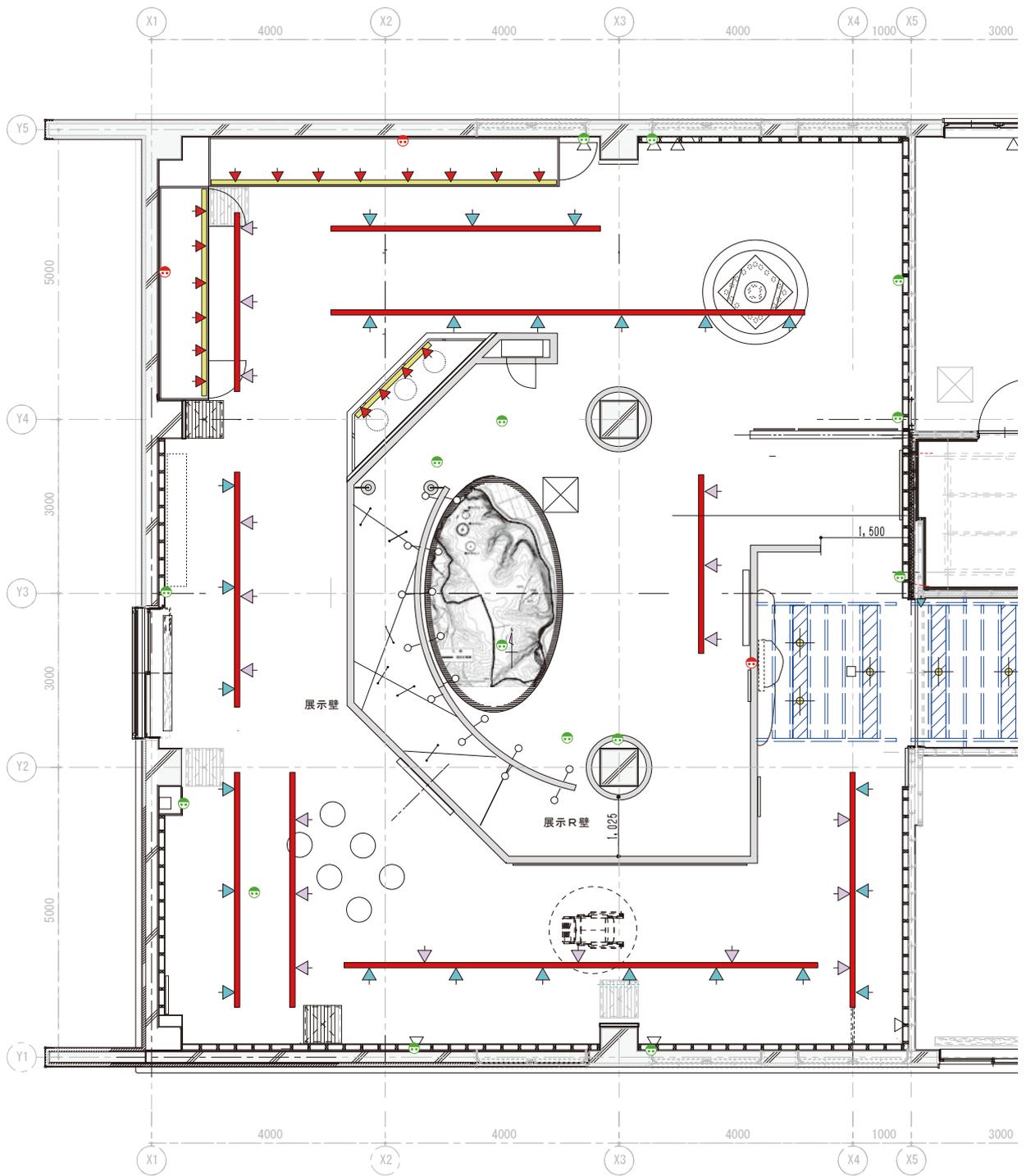


图43 展示室照明配置图

第5節 防火水槽工事

伊勢堂岱遺跡ガイダンス施設のための防火施設(消防法第20条 消防水利)について、隣接する河川(湯車川)は水位が極端に低い季節があるため、防火施設としては不適切であることから、ガイダンス施設から25m離れた地点に、防火水槽(40m³級)を新設することになった(図44)。

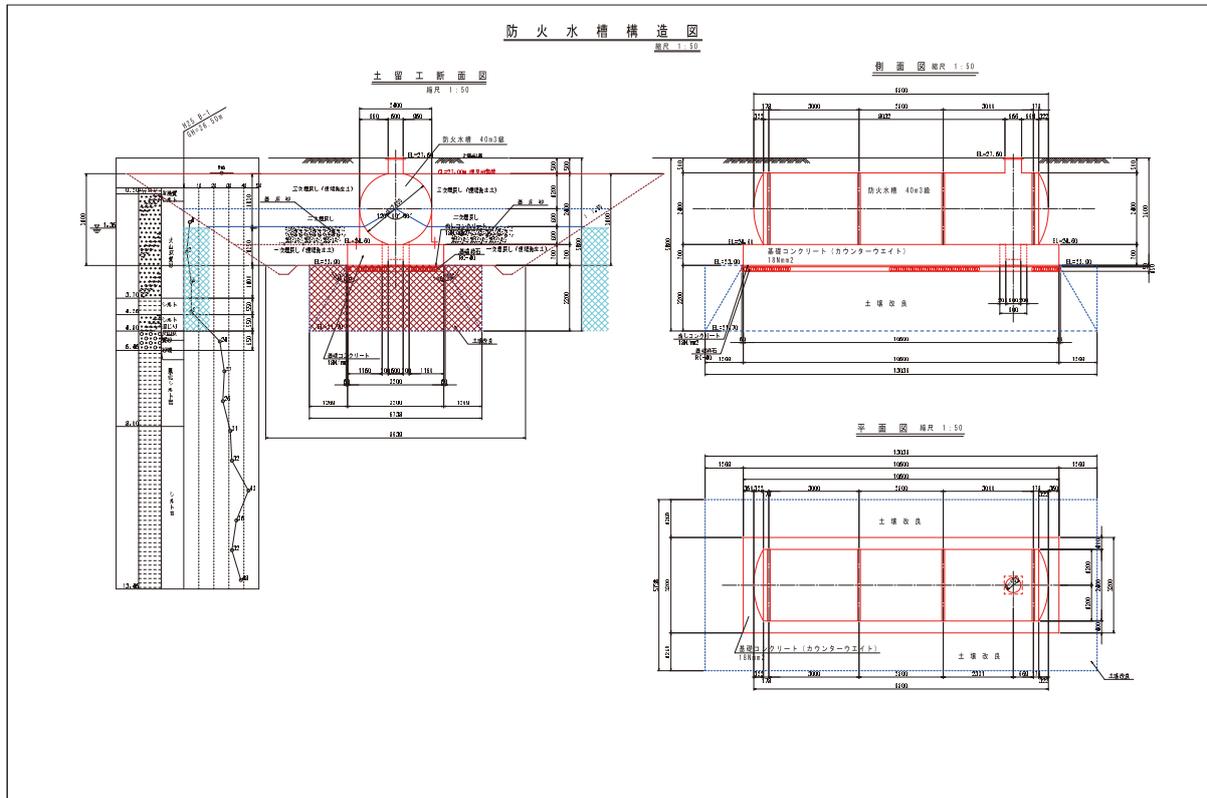


図44 防火水槽平面・断面図

第6節 その他の外構工事

事業は市単独事業費で行った(図45)。

(1) 敷地誘導道路及び駐車場

ガイダンス施設から史跡の入口をつなぐゾーンで、園路、広場、植栽帯で構成されている。縄文館自体が閉鎖的な空間にならないように工夫を凝らしている。駐車場と遺跡を結ぶように、ガイダンス施設内に通路を設けた。

駐車場は、細長く制限のある敷地を有効に活用するために、イギリス等でみられるラウンドアバウトのような動線にすることで、十分な駐車台数を確保できた(乗用車117台、大型バス6台)。アスファルト舗装である。

(2) 遺跡導入広場

ガイダンス施設から史跡の入口をつなぐゾーンで、園路、広場、植栽帯で構成されている。縄文館自体が閉鎖的な空間にならないように工夫を凝らしている。駐車場と遺跡を結ぶように、ガイダンス施設内に通路を設けた。

縄文館より北側には、旧道路予定地部分を芝生で緑化し、残された未完成の橋脚の前面に土舞台をつくり、イベントスペースとして活用している。縄文館開館イベントや縄文まつり、土舞台で市民グループやアーティストによる歌や踊りが披露される。

第7節 クマ対策

ツキノワグマが平成28年5月からたびたび史跡内で目撃されることから、平成29年にクマ対策を市単独費で実施した。

史跡内では、電気柵の設置、動物記録用カメラの設置、スギ立木伐採や徹底した草の刈り払いによる緩衝地帯の確保を行った。

縄文館については、イベントスペースを含めた範囲の電気柵設置、監視カメラの設置を実施した。

上記のようなハード面だけでなく、見学マニュアルを作成し、緊急事態の対応等をボランティアと共有している。

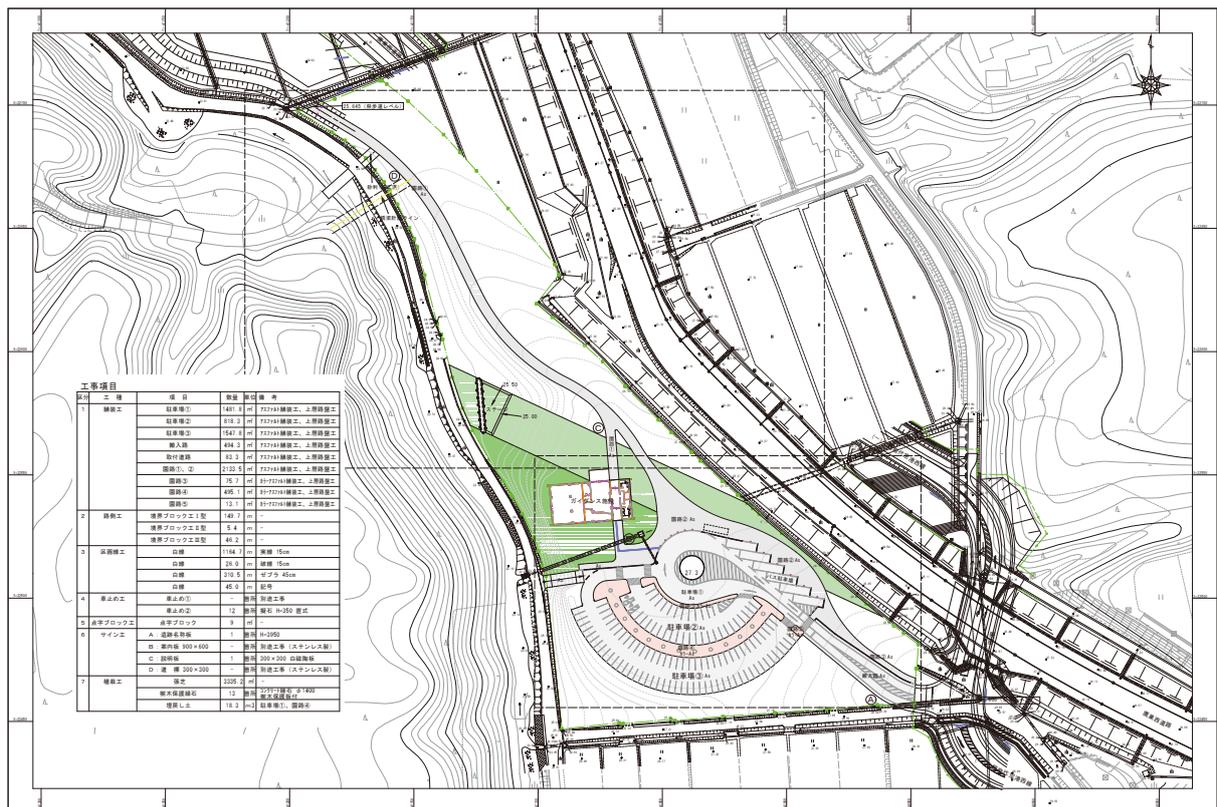


図45 外構設計図

第6章 活用

第1節 基本方針

『整備基本計画』では、国指定史跡伊勢堂岱遺跡の史跡整備を実施するため、以下のような基本方針（5Mコンセプトと呼んでいる）を基に推進している。

①史跡の確実な保存と次世代への伝達：MEMORIAL（メモリアル：記念、思い出）

→地域の人々や来訪者の思い出に残るような史跡として存在し続けるように、本質的な価値の確実な保存・活用を図り、次世代に伝承する。

②本質的な価値の顕在化：MONUMENT（モニュメント：記念物）

→記念物である環状列石の特徴を活かした史跡整備を行う。環状列石や縄文文化の特性を学びやすい環境を提示する。

③地域的文脈を踏まえ文化財の連鎖に注目した整備：MESSAGE（メッセージ：情報）

→史跡はこの地域の中核的な役割を持つとともに、縄文文化の情報を世界に向けて発信する。

④地域に根ざし、保存と調和した望ましい活用の方策：MIND（マインド：心）

→少子高齢化や生涯学習を通して市民の心のいやしとなる遺跡。

⑤地域づくり及びまちづくりの核として位置付け、歴史及び文化の側面からの適切な誘導：MAKE（メイク：作る）

→住民参加による手作りの史跡整備。

第2節 主な活用事業

①伊勢堂岱遺跡ワーキンググループ

平成9年に結成した。史跡や縄文館のガイドや活用、情報発信を行うボランティアである。

②伊勢堂岱遺跡ジュニアボランティア

平成27年度から実施しているボランティアで、小学4年生から高校3年生までが参加している。北秋田市内だけでなく、近隣の大館市からも参加が多い。5月の大型連休や8月の夏季休業を利用し、史跡や伊勢堂岱縄文館のガイドを行う。

③ジュニアシンポジウム

ジュニアボランティアが、ガイド経験を通して、ガイド方法や史跡の将来、世界遺産登録等について、意見を発表するシンポジウムである。

④カムバック・縄文サーモン

史跡の東側に北流する湯車川には10月上旬頃からサケが遡上する。それを楽しみにする見学者も多い。このことから、整備検討委員長の発案で、鷹巣漁業協同組合の支援を受け、平成23年からサケの稚魚を毎年放流している。近年では明らかに回帰するサケの個体数が多くなっている。

⑤縄文まつり

国史跡指定を祝い、平成13年に始まった。第2回からは史跡を次世代に伝承するためのイベントと

して、毎年開催している。粘土による土器土偶づくり、火おこし、的当て、イノシシ鍋試食等の縄文体験青空教室を中心に、縄文に思いをよせて、創作した歌や踊りを披露する縄文音楽祭も開催することもある。縄文館より北側のゾーンを活用する。

⑥遺跡導入広場の植栽

整備計画ゾーンで②遺跡導入広場（図10）とした地区では、縄文のたたずまいを復元することを目的として、伊勢堂岱遺跡ワーキンググループを中心に植栽を行っている。これまでにブナ、マメガキを植栽しており、今後、カラムシを育て、アンギン作成体験の原材料として活用する計画もある。

第3節 今後の展望

伊勢堂岱遺跡は整備に先行して、市民グループによるガイドやイベント等が行われてきた。これらの活用の実績を遺跡で実現するためのガイダンス施設であり、史跡整備だった。

縄文館開館後、多くの見学者が遺跡を訪れている。マツリ（祭祀）のために縄文人が環状列石に集まったように、多くの市民がマツリ（イベント）に集う場所になることで、現代に生きる遺跡として長く活用して欲しい。

写真図版



保存処理作業



構成礫の強化剤塗布



養生



固定土攪拌作業



固定土転圧



構成礫の固定



環状列石 A 保存処理完了



環状列石 B 保存処理完了



環状列石 C ベルト保存施工中



環状列石C 施工前



環状列石C 保存処理完了



環状列石D 保存処理完了



配石遺構群保存処理完了



掘立柱建物跡柱穴復元



掘立柱建物跡復元



掘立柱建物跡復元



中世の塚 張芝工事



史跡盛土工事



環状列石周辺張芝工事



史跡内張芝工事



環状列石柵設置



史跡張芝完成



史跡自動車展開場完成



園路工事



園路完成



園路完成



史跡標柱



史跡案内表示板



道案内版



橋梁下部工事



橋梁下部完成



橋梁本体搬入



橋梁本体設置



橋梁上部工



橋梁上部工



橋梁完成



ガイダンス施設建築杭工事



建築杭工事



建築基礎工事



建築基礎工事



階床基礎工事



階床基礎工事



建築杭工事



建築壁立ち上がり



建築屋根スラブ



建築屋根スラブ



建築屋根スラブ



建築外壁完成



建築外壁完成



建築杭工事



建築基礎工事



建築外観完成(南側)



建築外観完成(北東側)



建築外観完成(南西側)



建築風除室



建築エントランスホール



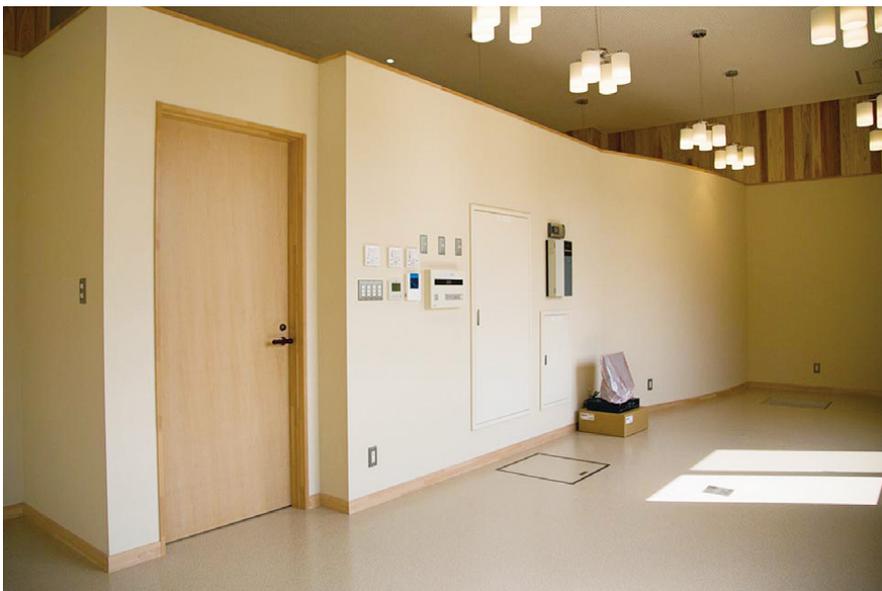
建築エントランスホール



建築展示室



建築展示室



建築事務室



建築空調室



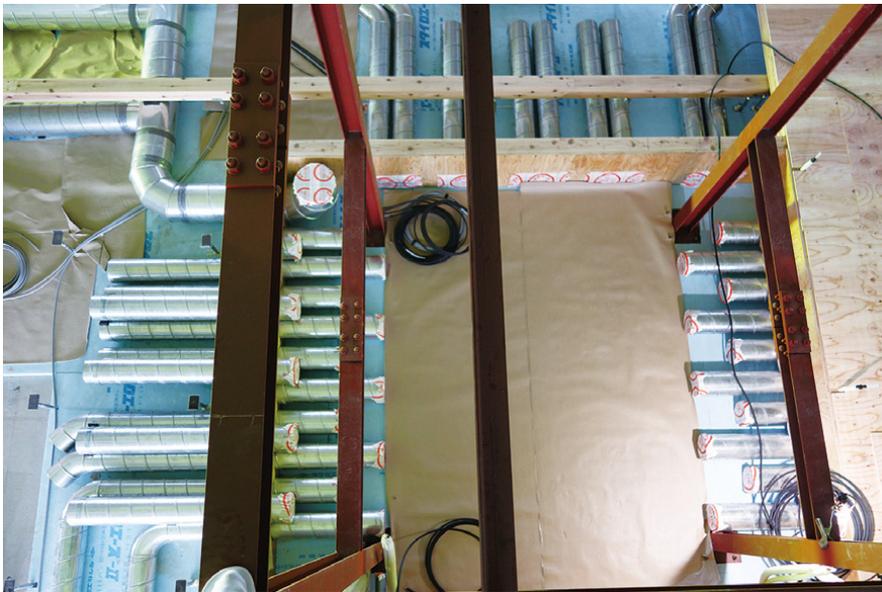
建築女子トイレ



建築みんなのトイレ



建築床下ダクト



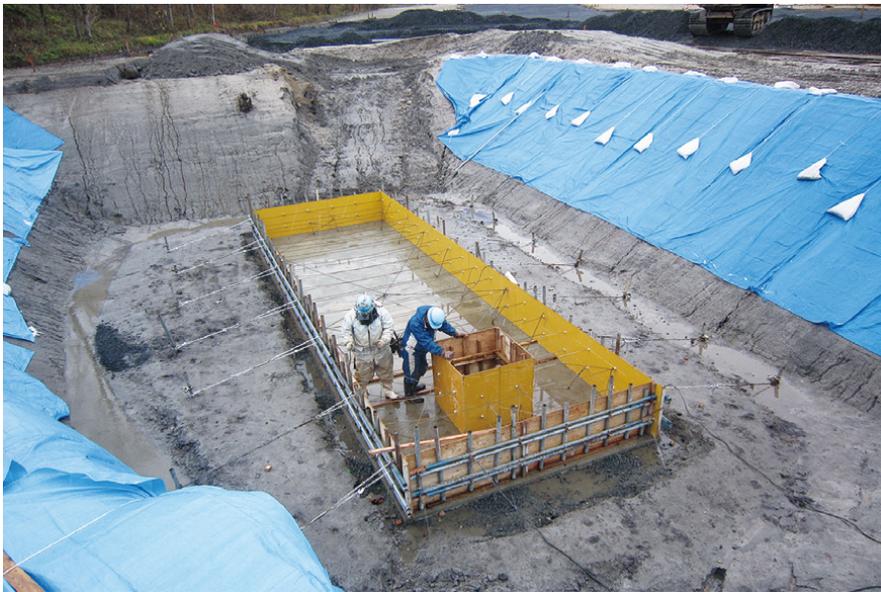
建築床下ダクト



建築床下ダクト



建築空調室外機



防火水槽基礎工事



防火水槽掘削・地盤改良工事



防火水槽設置



防火水槽設置完了



駐車場からみた縄文館



エントランスホール



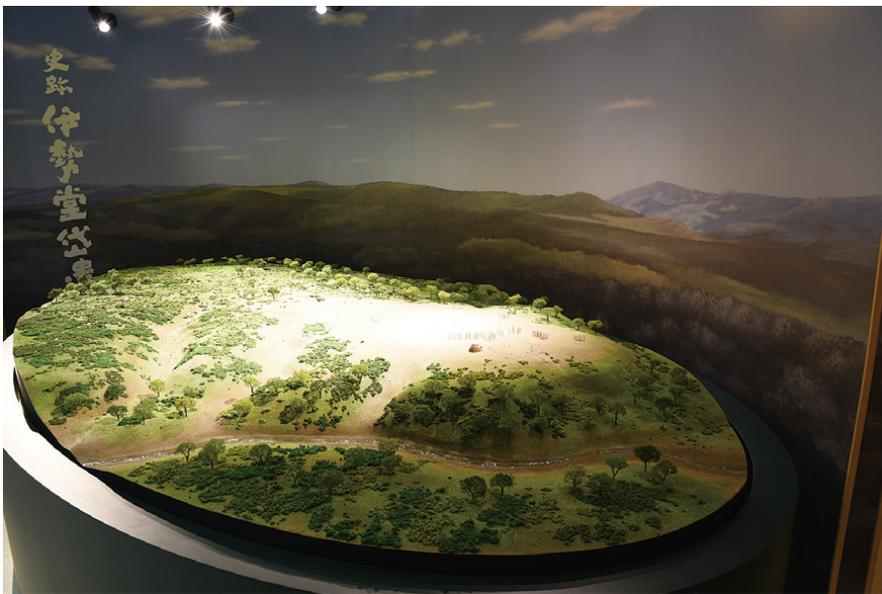
展示室解説



展示室展示ケース



展示室展示ケース



展示室遺跡ジオラマ



展示ジオラマ拡大



伊勢堂岱縄文館開館



旧橋脚を利用したステージ



ボランティアガイド活動

北秋田市伊勢堂岱縄文館条例

(設置)

第1条 史跡伊勢堂岱遺跡（以下「伊勢堂岱遺跡」という。）の保存と活用を図り、教育、学術及び文化の発展に資するため、北秋田市伊勢堂岱縄文館（以下「縄文館」という。）を設置する。

(名称及び位置)

第2条 縄文館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
北秋田市伊勢堂岱縄文館	北秋田市脇神字小ヶ田中田100番地1

(事業)

第3条 縄文館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 伊勢堂岱遺跡の保存及び整備に関すること。
- (2) 伊勢堂岱遺跡及び市内遺跡の出土品の保管、展示並びに活用に関すること。
- (3) 伊勢堂岱遺跡の活用及びボランティア活動の支援に関すること。

(管理)

第4条 縄文館は、北秋田市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が管理する。

(休館日)

第5条 縄文館の休館日は、月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日にあたる時は、その翌日）及び12月29日から翌年1月3日までとする。

2 教育委員会は、前項の規定にかかわらず、特に必要があると認めるときは、前項の休館日を変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

(開館時間)

第6条 縄文館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が特に必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(職員)

第7条 縄文館に館長及び必要な職員を置く。

(観覧料)

第8条 縄文館の展示室に入場しようとする者は、別表に定める観覧料を納付しなければならない。

(観覧料の減免)

第9条 市長は、特別の理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

(観覧料の不還付)

第10条 既に納付された観覧料は還付しない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、当該観覧料の全部又は一部を還付することができる。

(入館の制限)

第11条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、縄文館への入館を拒絶し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) 他人に危害又は迷惑を及ぼし、又はそのおそれがあると認められるとき。
- (3) 施設若しくは設備、備品等を損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
- (4) この条例又はこの条例に基づく教育委員会規則に違反したとき。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、管理上支障のあるとき又は教育委員会が適当でないと認められるとき。

(損害賠償の義務)

第12条 入館者は、縄文館の施設若しくは設備、備品等を損傷し、又は滅失したときは、これを原状に回復し、又は市長の指定する方法で損害を賠償しなければならない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(規則への委任)

第13条 この条例に定めるもののほか、条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

別表（第8条関係）

伊勢堂岱縄文館展示室観覧料

区分	個人 (1人1回につき)	団体 (1人1回につき)
大人(大学生、各種学校生徒(18歳以上)、一般)	200円	150円
高校生以下	無料	無料

備考 団体観覧料は、有料の観覧者10人以上の団体について適用する。

北秋田市伊勢堂岱縄文館管理規則

(趣旨)

第1条 この規則は、北秋田市伊勢堂岱縄文館条例（平成27年北秋田市条例第40号。以下「条例」という。）に定めるもののほか、北秋田市伊勢堂岱縄文館の管理及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(観覧料の納付)

第2条 条例第8条に規定する観覧料の納付は、展示室に入場するときとする。

(観覧料の減免)

第3条 条例第9条に規定する特別の理由とは、次に該当する場合をいう。

(1) 市及び北秋田市教育委員会が公務のために入場するとき。

(2) 公益上特に必要があると認めるとき。

2 前項各号の取扱いについては、別表による。

3 観覧料の減免を受けようとする者は、北秋田市伊勢堂岱縄文館観覧料減免申請書（様式第1号。以下「減免申請書」という。）を市長に提出しなければならない。

4 市長は、前項の規定による減免申請書の提出があったときは、その内容を審査し、これを適当と認めるときは、遅滞なく申請者に北秋田市伊勢堂岱縄文館観覧料減免承認通知書（様式第2号）により通知しなければならない。

(観覧料の還付)

第4条 条例第10条ただし書の規定による観覧料の還付を受けようとするときは、北秋田市伊勢堂岱縄文館観覧料還付申請書（様式第3号）を市長に提出しなければならない。

2 市長は、前項の規定により観覧料の還付を決定したときは、北秋田市伊勢堂岱縄文館観覧料還付決定通知書（様式第4号）により申請者に通知しなければならない。

(補則)

第5条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

区分	減免の理由	金額 (1人1回につき)	適用
規則第3条第1項第1号の規定に該当する場合	公務のための入場	無料	
規則第3条第1項第2号の規定に該当する場合	高校生以下の学習を目的とする見学の引率教員	無料	
	社会教育関係団体等の研修	100円	P T Aその他

事業費及び年度別財源内訳

年度	事業費	国庫	県補助	その他(市債等)	一般財源
平成23年度	9,180,337	3,925,000	0	0	5,255,337
平成24年度	24,420,876	11,982,000	0	0	12,438,876
平成25年度 (前年繰越)	10,237,500	5,118,000	0	0	5,119,500
平成25年度	164,358,023	76,960,000	0	0	87,398,023
平成26年度	388,126,134	125,080,000	2,651,000	103,400,000	156,995,134
平成27年度	208,018,826	70,770,000	0	115,800,000	21,448,826
平成28年度	57,266,855	28,401,000	0	26,200,000	2,665,855
平成29年度	23,403,991	10,900,000	0	6,700,000	5,803,991
合 計	885,012,542	333,136,000	2,651,000	252,100,000	297,125,542

史跡伊勢堂岱遺跡整備事業報告書

発行年月日 平成30年 3 月29日

発行者 北秋田市教育委員会
〒018-3312 秋田県北秋田市花園町10-1
電話 0186 (62) 6618

印刷 株式会社 秋北新聞社
〒018-3323 秋田県北秋田市米代町1-48
電話 0186 (62) 1236

史跡伊勢堂岱遺跡整備事業報告書

発行年月日 平成30年 3月29日

発行者 北秋田市教育委員会
〒018-3312 秋田県北秋田市花園町10-1
電話 0186 (62) 6618

印刷 株式会社 秋北新聞社
〒018-3323 秋田県北秋田市米代町1-48
電話 0186 (62) 1236
